

EDIUS Pro 3
V3.6 補足マニュアル

canopus

ご注意

- (1) 本製品の一部または全部を無断で複製することを禁止します。
- (2) 本製品の内容や仕様は将来予告無しに変更することがあります。
- (3) 本製品は内容について万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きの点がございましたら、当社までご連絡ください。
- (4) 運用した結果については、(3) 項にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。
- (5) ご使用上の過失の有無を問わず、本製品の運用において発生した逸失利益を含む特別、付随的、または派生的損害に対するいかなる請求があったとしても、当社はその責任を負わないものとします。
- (6) 本製品付属のソフトウェア、ハードウェア、マニュアル、その他添付物を含めたすべての関連製品に関して、解析、リバースエンジニアリング、デコンパイル、ディスアセンブリを禁じます。
- (7) カノープス、CANOPUS/ カノープス、EDIUS/ エディウス、ProCoder およびそのロゴは、カノープス株式会社の登録商標です。
- (8) Intel、Pentium、Xeon は、米国およびその他の国におけるインテルコーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。
- (9) HDV および、HDV ロゴはソニー株式会社と日本ビクター株式会社の商標です。
- (10) その他の商品名やそれに類するものは各社の商標または登録商標です。

表記について

- 本書での説明と実際の運用方法とで相違点がある場合には、実際の運用方法を優先するものとします。
- 本書はパソコンの基本的な操作を行うことができる方を対象に書かれています。特に記載の無い操作については、一般的なパソコンの操作と同じように行ってください。
- 本書では、EDIUS Pro 3 や EDIUS シリーズを EDIUS と表記します。

警告

■ 健康上のご注意

ごくまれに、コンピュータのモニターに表示される強い光の刺激や点滅によって、一時的にてんかん・意識の喪失などが引き起こされる場合があります。こうした経験をこれまでになされたことがない方でも、それが起こる体質をもっていることも考えられます。こうした経験をお持ちの方や、経験をお持ちの方の血縁にあられる方は、本製品を使用される前に必ず医師と相談してください。

■ 著作権について

テレビ放送やビデオなど、他人の作成した映像 / 音声をキャプチャしたデータは、動画、静止画に関わらず個人として楽しむ以外は、著作権法上、権利者に無断では使用できません。また、個人として楽しむ目的であっても複製が制限されている場合があります。キャプチャしたデータのご利用に対する責任は当社では一切負いかねますのでご注意ください。

目次

マニュアルについて	iii
本マニュアルの見かた	iii
コラムについて	iv

1 章 追加機能

1. プロジェクト	1-2
プロジェクトの新規作成	1-2
[プロジェクト設定] ダイアログ	1-3
プリセット一覧	1-5
プロジェクトの保存	1-12
オフラインクリップの復元	1-13
2. 操作画面	1-15
プレビューウィンドウ	1-15
3. [設定] ダイアログ	1-18
アプリケーション設定	1-18
ハードウェア設定	1-23
プラグイン設定	1-26
4. 素材 (クリップ)	1-29
ビンへの登録	1-29
クリップの色分け	1-32
複数のビデオクリップを一つにする	1-34
ツールの使用	1-36
5. CD/DVD からのキャプチャ	1-37
キャプチャできる形式	1-37
キャプチャ操作	1-38
[設定] ダイアログ	1-42
6. トラックの設定	1-43
トラックの削除	1-43
7. タイムラインのプレビュー	1-44
Recorder の操作ボタン	1-44
クリップの有効 / 無効	1-46
レイアウト (クロップ)	1-47
8. エフェクト	1-51
トランジションの使用 (クリップトランジション)	1-51
[ホワイトバランス] ダイアログ	1-53
9. カラーデータの確認	1-55
ベクトルスコープ / ウェーブフォーム	1-55
10. ボリューム調整	1-58
オーディオミキサー	1-58
11. 出力	1-60
形式の選択	1-60
FlashVideo エクスポート	1-62

デッキ制御できる機器へ出力.....	1-64
Canopus ProCoder Express For EDIUS.....	1-70
12. Quick Titler	1-72
背景プロパティ.....	1-72

2 章 HDV キャプチャと出力／MPEG キャプチャ

1. HDV 形式をキャプチャ	2-2
動作環境.....	2-2
HQ キャプチャ.....	2-3
HDV キャプチャと HQ AVI ファイル変換.....	2-7
録画詳細設定ダイアログ (HDV キャプチャの設定).....	2-15
2. HDV 形式を出力	2-19
MPEG-TS 形式のファイルを出力.....	2-19
3. MPEG キャプチャ	2-26
動作環境.....	2-26
MPEG Capture.....	2-27
設定ダイアログ (製品により異なります).....	2-30

マニュアルについて

本マニュアルの見かた

本書は、EDIUS Pro 3 (- V3.1 以降-) に追加された機能を中心に、変更された機能などを補足説明するマニュアルです。

EDIUS リファレンスマニュアル (- V3.0 の機能説明-) の記載内容から、新たに追加された機能 (NEW!)、変更された機能 (UPDATE!) について、次の表記を使用しています。

 : 新機能

 : 変更になった機能

マニュアルについて

コラムについて

表 記	内 容
ご注意	特に注意していただきたい事柄を説明しています。
ご注意 	
リファレンス参照	EDIUS リファレンスマニュアルに記載されている、関連する項目や参照ページを記載しています。
リファレンス参照 	
参照	本書の関連する項目について記載しています。
参照 	
その他の方法	関連する操作方法を説明しています。
関連知識	関連する知識を説明しています。
ショートカットキー	キーボードにデフォルトで割り当てられている、ショートカットキーを使用した方法を記載しています。

EDIUS

第 1 章

追加機能

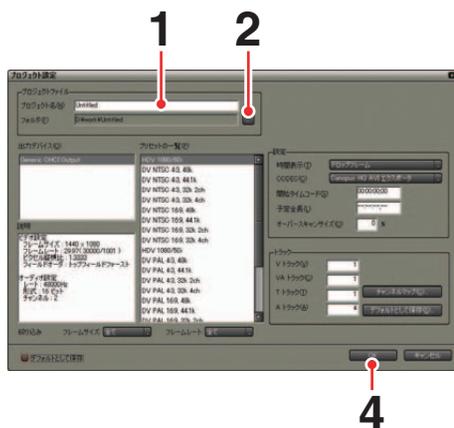
1. プロジェクト

1. プロジェクト

プロジェクトの新規作成

EDIUS を起動し、起動ダイアログで [New Project] ボタンをクリックします。

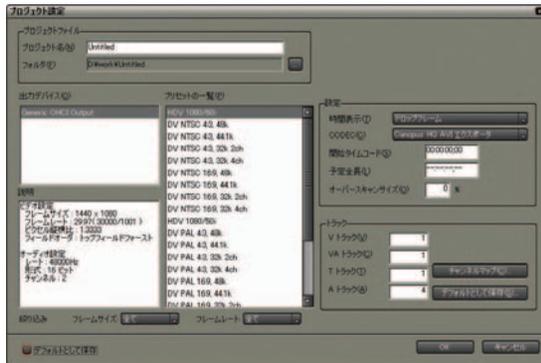
[プロジェクト設定] ダイアログが表示されます。



- 1 [プロジェクトファイル] エリアの [プロジェクト名] に、作業するプロジェクト名を入力します。
- 2 作業するフォルダを変更する場合は、[...] ボタンをクリックして表示される [フォルダの参照] ダイアログで対象となるフォルダを指定します。
- 3 各項目の内容を設定します。
- 4 [OK] ボタンをクリックします。

操作画面が表示されます。

【プロジェクト設定】ダイアログ



● プロジェクトファイル

【プロジェクト名】：
プロジェクトの名称を入力します。

【フォルダ】：
プロジェクトを保存する場所を指定します。

【出力デバイス】：
出力に使用するデバイスを選択します。

【プリセットの一覧】：
プリセットを選択します。[説明] に選択したプリセットのフレームサイズ、フレームレートなどの情報が表示されます。

[絞込み] でフレームサイズやフレームレートを指定すると、該当するフォーマットのみ [プリセットの一覧] に表示されます。

● 設定

【時間表示】：
ハードウェア設定が NTSC の場合、プロジェクト側のタイムコードをドロップフレーム表示にするか、ノンドロップフレーム表示にするかを選択します。

【CODEC】：
レンダリングやファイル出力に使用するデフォルトのコーデックを選択します。RGB、UYVY、YUY2 は非圧縮 AVI です。

【開始タイムコード】：
タイムライン先頭のタイムコードを入力します。

【予定全長】：
完成時の全長が決まっている場合に設定します。設定しておく、と、予定全長を超えた部分のタイムラインの色を変え、注意をうながします。プロジェクトの全長をタイムコードで入力します。

1. プロジェクト

[オーバースキャンサイズ] :

オーバースキャンを使用する場合は、比率を入力します。
入力範囲は「0」～「20」です。オーバースキャンを使用しないときは「0」を入力します。

●トラック

[V/VA/T/Aトラック] :

クリップを配置するトラック数を設定します。

[チャンネルマップ] ボタン :

ボタンをクリックすると [オーディオチャンネルマップ] ダイアログが表示され、各トラックのオーディオ出力チャンネルが設定できます。

[デフォルトとして保存] :

設定したトラック数をデフォルトとして保存します。

[絞り込み] :

フレームサイズとフレームレートを指定し、[プリセット一覧] に表示される項目を絞り込みます。

[デフォルトとして保存] チェックボックス :

チェックを入れると、次の新規作成時から [プロジェクト設定] ダイアログが表示されず、代わりにプロジェクト名入力だけのダイアログが表示されます。[設定] ボタンをクリックすると [プロジェクト設定] ダイアログが表示されます。



プリセット一覧

対応プリセットが追加されました。



編集プロファイル

● 出力デバイス：Generic OHCI Output

フレームサイズ	フレームレート	プリセット	コーデック	用途	備考	
SD	NTSC	Canopus SD50 NTSC 4:3	Canopus SD50	DVCPRO 50	*1	
		Canopus SD50 NTSC 16:9		DVCPRO 50	*1	
		DV NTSC 4:3, 48k	Canopus DV			
		DV NTSC 4:3, 44.1k				
		DV NTSC 4:3, 32k 2ch				
		DV NTSC 4:3, 32k 4ch				
		DV NTSC 16:9, 48k				
		DV NTSC 16:9, 44.1k				
		DV NTSC 16:9, 32k 2ch				
		DV NTSC 16:9, 32k 4ch				
		DV NTSC/30p 4:3, 48k			AG-DVX100 等	*4
		DV NTSC/30p 16:9, 48k			AG-DVX100 等	*4
	PAL	Canopus SD50 PAL 4:3	Canopus SD50	DVCPRO 50	*1	
		Canopus SD50 PAL 16:9		DVCPRO 50	*1	
		DV PAL 4:3, 48k	Canopus DV			
		DV PAL 4:3, 44.1k				
		DV PAL 4:3, 32k 2ch				
		DV PAL 4:3, 32k 4ch				
		DV PAL 16:9, 48k				
		DV PAL 16:9, 44.1k				
		DV PAL 16:9, 32k 2ch				
		DV PAL 16:9, 32k 4ch				
		HDV 576/25p 16:9		Canopus HQ	HDV (JVC)	
DV PAL/25p 4:3, 48k	Canopus DV	AG-DVX100 等		*4		
DV PAL/25p 16:9, 48k		AG-DVX100 等	*4			
その他	HDV 480/60p 16:9	Canopus HQ	HDV (JVC)			
	HDV 576/50p 16:9		HDV (JVC)			
	HDV 576/50p 4:3		HDV (JVC)			
	DV NTSC/24p 4:3 48k	Canopus DV	AG-DVX100 等	*4		

1. プロジェクト

フレームサイズ	フレームレート	プリセット	コーデック	用途	備考
SD	その他	DV NTSC/24p 16:9 48k	Canopus DV	AG-DVX100 等	*4
		DV NTSC/24pA 4:3 48k		AG-DVX100 等	*4
		DV NTSC/24pA 16:9 48k		AG-DVX100 等	*4
HD	NTSC	HDV 1080/60i	Canopus HQ	HDV (Sony/Canon)	
		Canopus HD 1080/60i	Canopus HD	DVCPRO HD	*1
		Canopus HD 1080/30p over 60i		P2	*3、ま たは*4
		Canopus HD 720/29.97p over 59.94p		VARICAM	*2、ま たは*3
		HDV 1080/30p	Canopus HQ	HDV (Canon)	*4
		HDV 720/30p		HDV (JVC)	
	PAL	HDV 1080/50i	Canopus HQ	HDV (Sony/Canon)	
		Canopus HD 1080/50i	Canopus HD	DVCPRO HD	*1
		Canopus HD 720/25p over 60p		VARICAM	*2、ま たは*3
		HDV 1080/25p	Canopus HQ	HDV (Canon)	*4
		HDV 720/25p		HDV (JVC)	*4
	その他	Canopus HD 1080/24p over 60i	Canopus HD	P2	*3,*4
		Canopus HD 1080/24pA over 60i		P2	*3,*4
		Canopus HD 720/60p		VARICAM	*2、ま たは*3
Canopus HD 720/23.976p over 59.94p		VARICAM		*2、ま たは*3	
Canopus HD 720/24p over 60p		VARICAM		*2、ま たは*3	
Canopus HD 720/50p over 60p		VARICAM		*2、ま たは*3	
HDV 1080/24p		Canopus HQ		HDV (Canon)	*4
HDV 720/24p			HDV (JVC)	*4	

- *1 : CODEC Option 使用時
- *2 : CODEC Option + VARICAM Option 使用時
- *3 : CODEC Option + P2 Option 使用時
- *4 : (NEW!) V3.6 からサポート
- * 用途に記載されているモデル名は一例です。

● 出力デバイス：(SHX-E1、NHX-E1、NHX-E2) Output

フレームサイズ	フレームレート	プリセット	コーデック	用途	備考
SD	NTSC	D1 NTSC 4:3	非圧縮 (YUY2)		
		D1 NTSC 16:9			
		DV NTSC 4:3	Canopus DV		
		DV NTSC 16:9			
		DV NTSC/30p 4:3		AG-DVX100 等	*4
		DV NTSC/30p 16:9		AG-DVX100 等	*4
	PAL	D1 PAL 4:3	非圧縮 (YUY2)		
		D1 PAL 16:9			
		DV PAL 4:3	Canopus DV		
		DV PAL 16:9			
		DV PAL/25p 4:3		AG-DVX100 等	*4
		DV PAL/25p 16:9		AG-DVX100 等	*4
	その他	DV NTSC/24p 4:3	Canopus DV	AG-DVX100 等	*4
		DV NTSC/24p 16:9		AG-DVX100 等	*4
		DV NTSC/24pA 4:3		AG-DVX100 等	*4
		DV NTSC/24pA 16:9		AG-DVX100 等	*4
HD *5	NTSC	HD 1440x1080/60i	Canopus HQ	HDV (Sony/Canon)	
		HD 1280x1080/60i	Canopus HD		
		HD 1440x1080/30p	Canopus HQ	HDV (Canon)	*4
		HD 1280x720/30p		HDV (JVC)	*4
	PAL	HD 1440x1080/50i	Canopus HQ	HDV (Sony/Canon)	
		HD 1440x1080/25p		HDV (Canon)	*4
		HD 1280x720/25p		HDV (JVC)	*4
	その他	HD 1440x1080/24p	Canopus HQ	HDV (Canon)	*4
		HD 1280x720/60p			*4
		HD 1280x720/50p			*4
HD 1280x720/24p		HDV (JVC)		*4	

*4：(NEW!)V3.6 からサポート

*5：HD 系はエクспанションボードの装着が必要です。

* 用途に記載されているモデル名は一例です。

1. プロジェクト

● 出力デバイス : RX-E1 Output

フレームサイズ	フレームレート	プリセット	コーデック	用途	備考
SD	NTSC	D1 NTSC 4:3	非圧縮 (YUY2)		
		D1 NTSC 16:9			
		DV NTSC 4:3	Canopus DV		
		DV NTSC 16:9			
	PAL	D1 PAL 4:3	非圧縮 (YUY2)		
		D1 PAL 16:9			
		DV PAL 4:3	Canopus DV		
		DV PAL 16:9			
HD	NTSC	HD 1920x1080/60i	Canopus HQ	HDCAM SR/HD D5	*4
		HD 1440x1080/60i		HDCAM	
		HD 1280x1080/60i	Canopus HD	DVCPRO HD	
	PAL	HD 1920x1080/50i	Canopus HQ	HDCAM SR/HD D5	*4
		HD 1440x1080/50i		HDCAM/DVCPRO HD	

*4 : (NEW!)V3.6 からサポート

* 用途に記載されているモデル名は一例です。

入力設定

● 入力デバイス : Generic OHCI

フレームサイズ	フレームレート	プリセット	コーデック	用途	備考
SD	NTSC	Canopus SD50 NTSC/60i	Canopus SD50	DVCPRO 50	*1
		DV NTSC	Canopus DV		
	PAL	Canopus SD50 PAL/50i	Canopus SD50	DVCPRO 50	*1
		DV PAL	Canopus DV		
HD	NTSC	Canopus HD 1080/60i	Canopus HD	DVCPRO HD	*1
	PAL	Canopus HD 1080/50i	Canopus HD	DVCPRO HD	*1

1. プロジェクト

フレームサイズ	フレームレート	プリセット	コーデック	用途	備考
HD	その他	Canopus HD 720/60p	Canopus HD		*2
		Canopus HD 720/60p Constant Rate Shooting over 59.94p			*2
		Canopus HD 720/60p Constant Rate Shooting over 60.00p			*2

*1: CODEC Option 使用時

*2: CODEC Option + VARICAM Option 使用時

* 用途に記載されているモデル名は一例です。

● 入力デバイス: Generic HDV

フレームサイズ	フレームレート	プリセット	コーデック	用途	備考
SD	NTSC	—	—	—	
	PAL	Canopus HQ 576/25p	Canopus HQ	HDV (JVC)	
	その他	Canopus HQ 480/60p	Canopus HQ	HDV (JVC)	
		Canopus HQ 576/50p		HDV (JVC)	
HD	NTSC	Canopus HQ 1080/60i	Canopus HQ	HDV (Sony/Canon)	
		Canopus HQ 1080/24p over 60i		HDV (Canon)	*4
		Canopus HQ 1080/24pA over 60i		HDV (Canon)	*4
		Canopus HQ 1080/30p		HDV (Canon)	*4
		Canopus HQ 720/30p		HDV (JVC)	
	PAL	Canopus HQ 1080/50i	Canopus HQ	HDV (Sony/Canon)	
		Canopus HQ 1080/25p		HDV (Canon)	*4
		Canopus HQ 720/25p		HDV (JVC)	
	その他	Canopus HQ 720/24p over 60p	Canopus HQ	HDV (JVC)	*4

*4: (NEW!) V3.6 からサポート

* 用途に記載されているモデル名は一例です。

1. プロジェクト

- 入力デバイス : SHX-E1-Component、
(SHX-E1、NHX-E1、NHX-E2)-Composite、S

フレーム サイズ	フレーム レート	プリセット	コーデック	用途	備考
SD	NTSC	Uncompressed D1 NTSC 4:3	非圧縮 (YUY2)		
		Uncompressed D1 NTSC 16:9			
		DV NTSC 4:3	Canopus DV		
		DV NTSC 16:9			
		Canopus HQ NTSC 4:3	Canopus HQ		
		Canopus HQ NTSC 16:9			
		Canopus Lossless NTSC 4:3	Canopus Lossless		
		Canopus Lossless NTSC 16:9			
		Canopus SD50 NTSC 4:3	Canopus SD50		*1
	Canopus SD50 NTSC 16:9			*1	
	PAL	Uncompressed D1 PAL 4:3	非圧縮 (YUY2)		
				Uncompressed D1 PAL 16:9	
		DV PAL 4:3	Canopus DV		
		DV PAL 16:9			
		Canopus HQ PAL 4:3	Canopus HQ		
		Canopus HQ PAL 16:9			
		Canopus Lossless PAL 4:3	Canopus Lossless		
		Canopus Lossless PAL 16:9			
Canopus SD50 PAL 4:3		Canopus SD50		*1	
Canopus SD50 PAL 16:9			*1		

*1 : CODEC Option 使用時

- 入力デバイス : (SHX-E1、NHX-E1、NHX-E2)-DV

フレーム サイズ	フレーム レート	プリセット	コーデック	用途	備考
SD	NTSC	DV NTSC	Canopus DV		
	PAL	DV PAL	Canopus DV		

1. プロジェクト

● 入力デバイス：RX-E1-BackPanel

フレーム サイズ	フレーム レート	プリセット	コーデック	用途	備考
SD	NTSC	Uncompressed D1 NTSC 4:3	非圧縮 (YUY2)		
		Uncompressed D1 NTSC 16:9			
		DV NTSC 4:3	Canopus DV		
		DV NTSC 16:9			
		Canopus HQ NTSC 4:3	Canopus HQ		
		Canopus HQ NTSC 16:9			
		Canopus Lossless NTSC 4:3	Canopus Lossless		
		Canopus Lossless NTSC 16:9			
		Canopus SD50 NTSC 4:3	Canopus SD50		
		Canopus SD50 NTSC 16:9			
	PAL	Uncompressed D1 PAL 4:3	非圧縮 (YUY2)		
				Uncompressed D1 PAL 16:9	
		DV PAL 4:3	Canopus DV		
		DV PAL 16:9			
		Canopus HQ PAL 4:3	Canopus HQ		
		Canopus HQ PAL 16:9			
		Canopus Lossless PAL 4:3	Canopus Lossless		
		Canopus Lossless PAL 16:9			
		Canopus SD50 PAL 4:3	Canopus SD50		
		Canopus SD50 PAL 16:9			
HD	NTSC	Canopus HQ HD 1920x1080/60i	Canopus HQ		*4
		Canopus HQ HD 1440x1080/60i			
		Canopus HD HD 1280x1080/60i	Canopus HD		
	PAL	Canopus HQ HD 1920x1080/50i	Canopus HQ		*4
		Canopus HQ HD 1440x1080/50i			
		Canopus HD HD 1440x1080/50i	Canopus HD		

*4：(NEW!)V3.6 からサポート

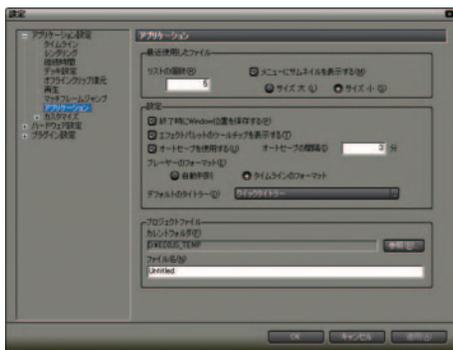
1. プロジェクト

プロジェクトの保存

UPDATE!

● オートセーブ

プロジェクトファイルを一定間隔で自動保存します。オートセーブの設定は、[設定] ダイアログのアプリケーション設定で行います。



オートセーブファイルは、[プロジェクト名]/[project]/[AutoSave] フォルダに作成されます。

NEW!

● バックアップ

プロジェクトの保存操作を行ったときに、同時に作成されます。



バックアップファイルは、[プロジェクト名]/[project]/[Backup] フォルダに作成されます。

例えば、プロジェクト名を「Jupiter」にした場合、オートセーブファイルは、[Jupiter]/[project]/[AutoSave] フォルダに作成されます。バックアップファイルは、[Jupiter]/[project]/[Backup] フォルダ内に作成されます。

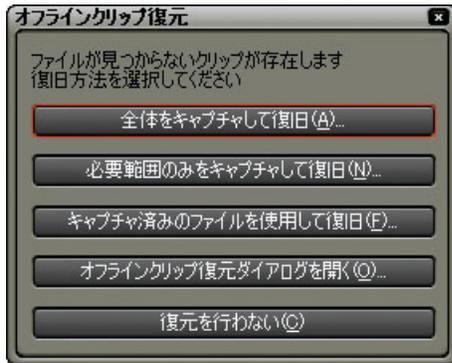
オートセーブ、バックアップファイルともファイル名は、「プロジェクト名 - 年月日 - 時分秒」で生成されます。例えば、[Jupiter-051101-153002.epj]、[Jupiter-051101-153002.ews] というファイルが作成されます。ファイルは最大10個まで作成され、新たなファイルが作成されると古いファイルから削除されます。

オートセーブファイルやバックアップファイルを使用してプロジェクトを修復する場合は、元のプロジェクトファイルがあったフォルダにファイルを移動してから、ファイルを読み込んでください。

オフラインクリップの復元

ピンに登録したクリップは、素材ファイルとリンクしています。プロジェクトファイルを保存した後、素材ファイルを移動・削除した場合、そのファイルとリンクしていたクリップは「オフラインクリップ」となります。

以前作成したプロジェクトファイルを読み込んでいるとき、オフラインクリップが含まれていると次のようなメッセージが表示されます。



【全体をキャプチャして復旧】：

［バッチキャプチャ］ダイアログが表示されます。ファイル全体をキャプチャします。

【必要範囲のみをキャプチャして復旧】：

［バッチキャプチャ］ダイアログが表示されます。タイムライン上で使用されている部分のみをキャプチャします。複数のオフラインクリップがある場合、各オフラインクリップをキャプチャしたファイルに置き換えます。

【キャプチャ済みのファイルを使用して復旧】：

キャプチャ済みのファイルの中から、リール番号 (Ubit) とタイムコード範囲 (In/Out 点間) が当てはまるファイルを検索します。ファイルが見つからない場合、［オフラインクリップ復元］ダイアログで［フォルダ変更］ボタンをクリックし、検索先を変更することができます。復元を行う場合、［オフラインクリップ復元］ダイアログで［全て復元］ボタンをクリックします。個別に復元を行う場合は、クリップ名を一覧から選択し、［復元］ボタンをクリックします。

【オフラインクリップ復元ダイアログを開く】：

［オフラインクリップ復元］ダイアログが表示されます。リンクが切れたファイルを再リンクできます。

【復元を行わない】：

オフラインクリップの復元を行わず、EDIUS を起動させます。



1. プロジェクト

ご注意



ご注意

- ・ 参照 AVI ファイルをクリップとして登録している場合は、ファイルを移動するとオフラインクリップになります。この場合、オフラインクリップを復元することはできません。
- ・ EDIUS 以外のソフトウェアで作成したファイルは、キャプチャして復元することはできません。

その他の方法

いったんプロジェクトを読み込み、あとからオフラインクリップを復元することもできます。[プロジェクトを開く] のリストボタンから [オフラインクリップ復元] を選択します。



2. 操作画面

プレビューウィンドウ

プレビューウィンドウには、Player と Recorder の 2 種類があります。シングルモード時には [Player に切り替え] / [Recorder に切り替え] ボタンで表示ウィンドウを切り替えます。

[チャンネル / ファイルの選択] ボタンと [Track の選択] ボタンの大きさが伸長され、ファイル名や入力デバイス名が認識しやすくなりました。

UPDATE!

● Player

- ・ デジタイズ操作、クリップの作成
- ・ 素材データ・クリップの再生、および In 点 / Out 点の設定

動作中は、表示した素材データのカレント位置を保持しています。そのためマッチフレームジャンプや別クリップのプレビューによりPlayerに他のクリップを表示させても、もう一度元のクリップを表示すると最後に表示した位置の映像を表示します。

UPDATE!

● Recorder

- ・ タイムラインの再生、およびタイムラインの In 点 / Out 点を設定



〉 デュアルモード

2. 操作画面

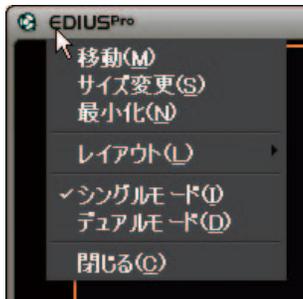
[Player に切り替え] ボタン
[Recorder に切り替え] ボタン



> シングルモード

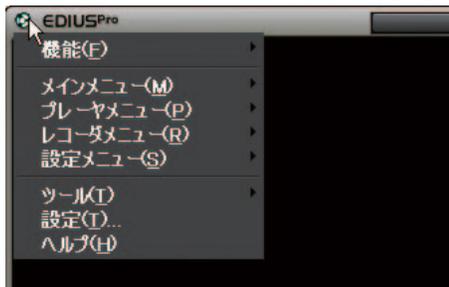
● EDIUS マーク

ウィンドウの EDIUS マーク **EDIUSPro** をクリックすると、ウィンドウのレイアウトに関するメニューが表示されます。



● EDIUS アイコン

ウィンドウの EDIUS アイコン  をクリックすると、プレビューウィンドウのすべての設定メニューを表示します。



ショートカットキー

すべての設定メニュー表示：[Shift] + [F1] キー
Player のポップアップメニュー表示：[Shift] + [F4] キー
Recorder のポップアップメニュー表示：[Shift] + [F5] キー

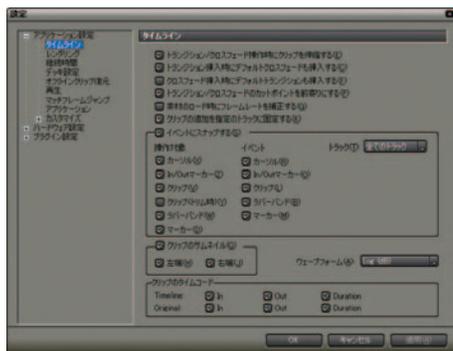
UPDATE!

3. [設定] ダイアログ

3. [設定] ダイアログ

アプリケーション設定

タイムライン

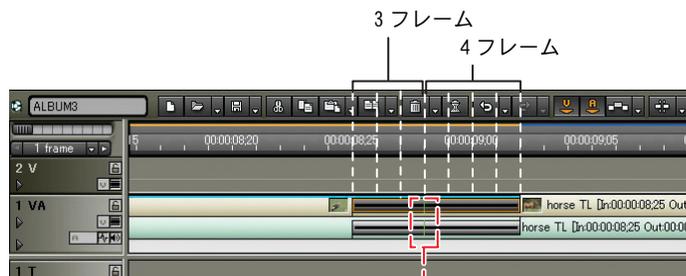


【トランジション/クロスフェード操作時にクリップを伸縮する】：
チェックを入れると、トランジション/オーディオクロスフェードをタイムライン上のクリップに設定した際、左右のクリップがそれぞれ伸びて重なります（全体の長さは変わりません）。

【トランジション挿入時にデフォルトクロスフェードも挿入する】：
チェックを入れると、VAトラック上でビデオクリップにトランジションを設定した際、同じ位置のオーディオクリップにもデフォルトのオーディオクロスフェードが同時に追加されます。

【クロスフェード挿入時にデフォルトトランジションも挿入する】：
チェックを入れると、VAトラック上でオーディオクリップにクロスフェードを設定した際、同じ位置のビデオクリップにもデフォルトのトランジションが同時に追加されます。

【トランジション/クロスフェードのカットポイントを前寄りにする】：
チェックを入れると、トランジションやオーディオクロスフェードのカットポイントを前寄りに設定します。例えば7フレーム分のトランジションを設定した場合、3フレームと4フレームの間にカットポイント（緑のライン）が設定されます。



カットポイント

[素材のロード時にフレームレートを補正する] :

チェックを入れると、クリップをピン（またはタイムライン）に読み込む際、自動的にクリップのフレームレートを補正します。プレビュー時にフレームレート変換処理を行う必要がなくなるため、再生動作が軽くなります。フレームレートの補正は、プロジェクトとクリップが次の組み合わせである場合のみ行われます。

29. 97 : 30. 00

59. 94 : 60. 00

23. 976 : 24. 00

[クリップの追加を指定のトラックに固定する] :

チェックを入れると、クリップの振り分け時に、すでにクリップが存在する場合は上書きします。チェックを外すと、自動的にあいているトラックに振り分けます。



● イベントにスナップする

チェックを入れると、スナップ機能を有効にします。

[操作対象] :

スナップを行う操作対象を選択します。

[イベント] :

スナップ先として表示されるイベントを選択します。

[トラック] :

イベントの有効範囲を選択します。

● クリップのサムネイル

チェックを入れると、タイムライン上にあるクリップの端に In/Out 点のサムネイルを表示します。表示させない場合はチェックを外します。

[ウェーブフォーム] :

タイムラインのウェーブフォームの表示方法を、[Log(dB)] または [Linear (%)] のどちらかに設定します。

● クリップのタイムコード

チェックを入れたタイムコードをクリップに表示します。



その他の方法

クリップのフレームレートは、クリップの [プロパティ] ダイアログで変更できます。

ショートカットキー

クリップサムネイルの表示 / 非表示 : [Alt] + [H] キー

3. [設定] ダイアログ

リファレンス 参照



リファレンス参照

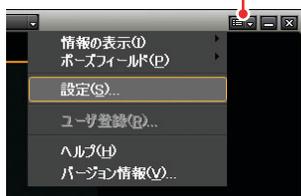
- ・クリップの伸縮については、「伸縮・固定モード」P6-2 を参照してください。
- ・デフォルトのトランジションやオーディオクロスフェードの設定については、「デフォルトの設定変更」P8-4 を参照してください。

カスタマイズ (コントロール)

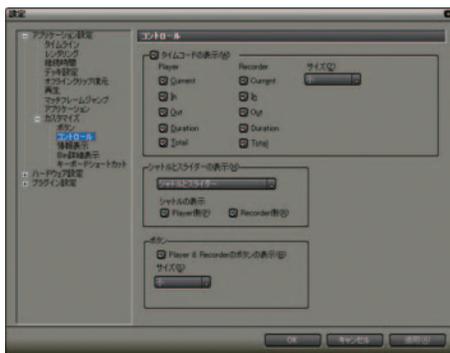


- 1 [設定] ボタンをクリックし、[設定] を選択します。

[設定] ボタン



- 2 [アプリケーション設定] の [カスタマイズ] から [コントロール] を選択します。



● タイムコードの表示

プレビューウィンドウに表示するタイムコード項目 ([Current]、[In]、[Out]、[Duration]、[Total]) の表示 / 非表示を設定します。
[サイズ] から文字の表示サイズ ([極小]、[小]、[中]、[大]、[極大]) が指定できます。



● シャトルとスライダーの表示

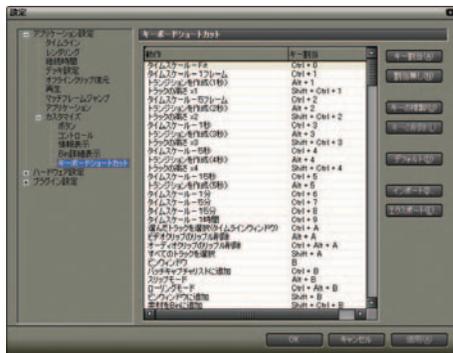
プレビューウィンドウのシャトル、スライダーの表示 / 非表示を設定します。

● ボタン

プレビューウィンドウの操作ボタンの表示 / 非表示を設定します。
[サイズ] から、プレビューウィンドウとタイムラインにある操作ボタンの表示サイズ ([極小]、[小]、[中]、[大]、[極大]) が指定できます。



カスタマイズ (キーボードショートカット)



[キー割当] ボタン：

キー割当を設定する状態にします。

[割当無し] ボタン：

割り当てられたショートカットキーをクリアします。

[キーの複製] ボタン：

動作 (機能) に複数のショートカットキーを割り当てる場合に使用します。ショートカットキーを選択し、[キーの複製] ボタンをクリックすると、選択中のショートカットキーを複製します。このときキー割当は、[割当なし] に設定されます。



[キーの削除] ボタン：

ショートカットキーを削除します。ショートカットキーを選択し、[キーの削除] ボタンをクリックすると、選択中のショートカットキーを削除します。

* ショートカットキーが1つしか存在しない (複数のキー割当を行っていない) 場合、[キーの削除] ボタンをクリックすることはできません。

3. [設定] ダイアログ

[デフォルト] ボタン：

キー割当を初期設定に戻します。

[インポート] ボタン：

「キーボードショートカット」の「ショートカットキー」の内容を読み込みます。

インポートした内容を確定する場合は、続けて [適用] ボタンをクリックします。

[エクスポート] ボタン：

「キーボードショートカット」の「ショートカットキー」の内容を書き出します。

**リファレンス
参照**



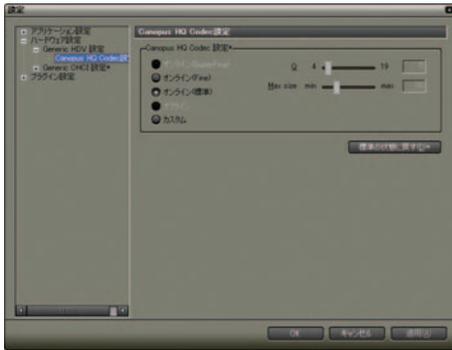
リファレンス参照

キーボードショートカットの設定については、「ショートカットキーのカスタマイズ」P3-42 を参照してください。

ハードウェア設定



Canopus HQ Codec 設定 (Generic HDV 設定)



● Canopus HQ Codec 設定

[オンライン (SuperFine)] :

現在は選択できません。今後のアップグレード情報をご覧ください。

[オンライン (Fine)] :

最も高画質な設定ですが、ファイルサイズも大きくなります。高画質の取り込みが必要な場合に選択します。

[オンライン (標準)] :

通常はこの設定で十分な画質を得ることができます。

[オフライン] :

現在は選択できません。今後のアップグレード情報をご覧ください。

[カスタム] :

チェックを入れると、[Q]、[Max size] を調節することができます。

[Q] :

画質を調節します。4 から 30 の間で設定し、少ないほど高画質になります。

[Max size] :

最大ビットレートを設定します。ノイズの多い画像はファイルサイズが不用意に大きくなる場合がありますが、これを制限するように設定ができます。設定値 [100]% は、コーデック圧縮前と同じビットレートを表します。たとえば、1440 × 1080 60i で、100% は約 750 Mbps です。この上限を 200 Mbps に制限する場合は [27]% に設定します。

[標準の状態に戻す] :

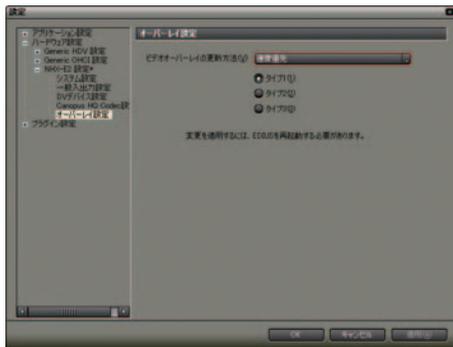
*のついている項目をデフォルトの設定値に戻します。

3. [設定] ダイアログ

NEW!

オーバーレイ設定

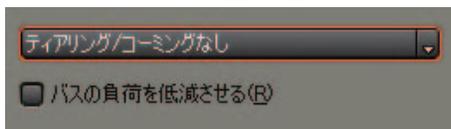
オーバーレイ設定は、デバイスによって設定項目が異なっている場合や設定そのものがない場合があります。



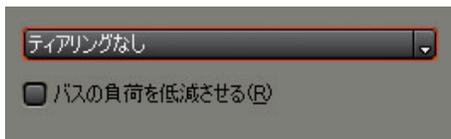
[ビデオオーバーレイの更新方法]:

オーバーレイの表示が正しく行われない場合に、オーバーレイの表示方法を変更します。

[速度優先]は、システムの負荷が最も低くなります。PC モニタとのタイミングを合わせることが物理的に不可能なため、ティアリングが発生します。1 フィールドごとに画面の更新を行います。[タイプ 1] で正常に表示されない場合は、[タイプ 2]、[タイプ 3] の順にお試しください。[タイプ 3] が最も高速な表示になります。



[ティアリング / コーミングなし] は、インターレス映像を、プログレッシブ化して表示します。PC モニタ上でも、フィールド動作を行っています。細かな動きのチェックなどに使用します。1 フィールドごとに画面の更新を行います。



[ティアリングなし] は、[ティアリング / コーミングなし] よりもシステムの負荷が低くなります。1 フレームごとに画面の更新を行います。

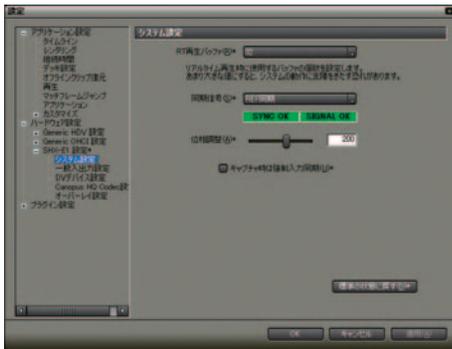
[ティアリングなし]、[ティアリング / コーミングなし] の場合、[バスの負荷を低減させる] チェックボックスが表示されます。バスビジーが発

生ずる場合に [バスの負荷を低減させる] にチェックを入れると、CPU 負荷は上がりますが改善する場合があります。

*ティアリングの回避は、グラフィックドライバの機能で行います。

*[ティアリング / コーミングなし] を選択した場合、PC モニタのリフレッシュレートによっては、なめらかに表示されない場合があります。PC モニタは、ビデオのフレームレートの整数倍に近いリフレッシュレートの使用することを推奨します。

システム設定 (SHX-E1 設定)



[RT 再生バッファ]:

リアルタイム再生時に使用するバッファのフレーム数 (32、48、64、96) を設定します。フレーム数を大きくするとリアルタイム再生がしやすくなりますが、その分メモリを消費します。

[同期信号]:

[REF 同期]、[入力同期]、[OFF (フリーラン)] の中から同期信号を選択します。指定された同期信号で同期が取れない場合には、自動的に適切なモードに移行します。

例えば、再生時に選択した同期信号が入力されていない場合は、フリーランモードになります。キャプチャ時に [OFF (フリーラン)] が選択されている場合は、自動的に入力同期モードになります。

下段には同期状態を表示します。[NO SYNC / SYNC OK] は、現在のシステムが入力されている信号と同期が取れているかどうかを表します。[NO SIGNAL / SIGNAL OK] は、入力端子に何らかの入力があるかどうかを表します。

ご注意

[入力同期] に設定した時点で、同期信号の入力がない場合は、自動的に [OFF (フリーラン)] で動作します (設定は、[入力同期] のままです)。その後、同期信号が入力されても動作は [OFF (フリーラン)] のままで動作は変更されません。この場合、EDIUS のプレビューウィンドウで Player と Recorder をクリックし、アクティブなモニタを切り替えてください。同期信号を認識し、動作が [入力同期] に戻ります。

ご注意



3. [設定] ダイアログ

NEW!

[位相調整]:

同期モードの位相を調整します。

[キャプチャ時は強制入力同期]:

チェックを入れると、キャプチャ時に入力同期を使用します。

[標準の状態に戻す]:

*のついている項目をデフォルトの設定値に戻します。

プラグイン設定

静止画エクスポート



[画像設定]:

映像を静止画として出力する際、出力されるフィールドを設定します。

[フィールド補間]:

出力されるフィールドの補間方法を設定します。

[アスペクトを補正]:

出力される静止画の縦横比を補正します。

[保存するファイルの形式]:

静止画として保存するファイルの形式を設定します。

NEW!

関連知識

ここでの設定は、静止画クリップの書き出しや静止画エクスポートで出力される静止画ファイルに反映されます。

リファレンス 参照



リファレンス参照

静止画クリップの書き出しについては、「タイムラインから静止画クリップの書き出し」P7-85、静止画エクスポートからの出力については「静止画エクスポート」P11-9を参照してください。

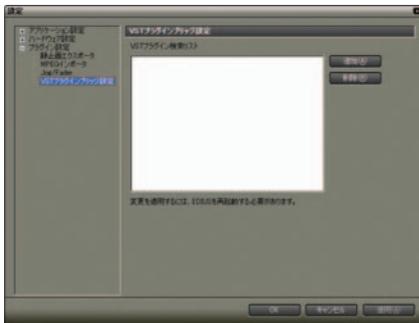
Jog/Fader



オプションのジョグシャトルコントローラ、およびフェーダコントローラを使用する場合にコントローラのポートへの割り当てや、ジョグシャトルコントローラのボタンへのキー割り当てを行います。

使用方法は、コントローラ付属のマニュアルをご覧ください。

VST プラグインブリッジ設定



[追加] :

VST プラグインのあるフォルダを指定します。

[削除] :

[VST プラグイン検索リスト] からフォルダを削除します。

VST プラグインの登録

- 1 VST プラグイン (VST の DLL) を、お使いのコンピュータ上の任意のフォルダにご用意ください。
- 2 [設定] ダイアログを開き、[プラグイン設定] の [VST プラグインブリッジ設定] を選択します。
- 3 [追加] ボタンをクリックし、[フォルダの参照] ダイアログで VST プラグインのあるフォルダを指定します。

フォルダが登録され、[VST プラグイン検索リスト] に表示されます。

NEW!

NEW!

UPDATE!

3. [設定] ダイアログ

4 EDIUS を一度終了し、再び起動します。

[Effect] パレットのオーディオフィルタに VST フォルダが登録されます。
VST フォルダから VST プラグインを選択することができます。

*手順 3 で登録済みのフォルダに VST の DLL を追加した場合、フォルダの登録を改めて行う必要はありません。

4. 素材 (クリップ)

ビンへの登録

タイムラインからの登録

トラックに配置したクリップをビンに登録できます。

- 1 登録するクリップ上の右クリックメニューから、[Bin に追加] を選択します。



その他の方法

- ・クリップ上にマウスカーソルを置き、そこからドラッグ&ドロップでビンに登録します。
- ・クリップをダブルクリックしてPlayerに表示し、Player上にマウスカーソルを置き、そこからドラッグ&ドロップでビンに登録します。
- ・クリップをダブルクリックしてPlayerに表示し、Playerの [Bin にClip 情報を反映] のリストボタンから [Bin にクリップを追加] を選択します。

[Bin にClip 情報を反映] ボタン



リファレンス参照

詳しくは「タイムラインからビデオクリップの書き出し」 P7-83 を参照してください。



リファレンス
参照



4. 素材（クリップ）

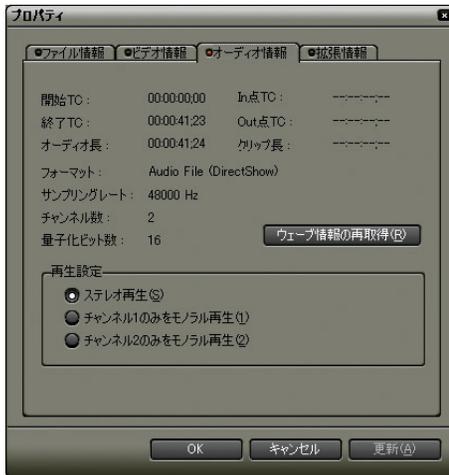
関連知識

タイムライン上でクリップの In/Out 点を変更し、その情報をピン上のクリップに反映させる場合は、[Bin に Clip 情報を反映] ボタンをクリックします。



[Bin に Clip 情報を反映] ボタン

対応フォーマット



> クリップのプロパティダイアログ

登録情報の出力

ピンに登録したクリップの情報を HTML ファイルに出力します。

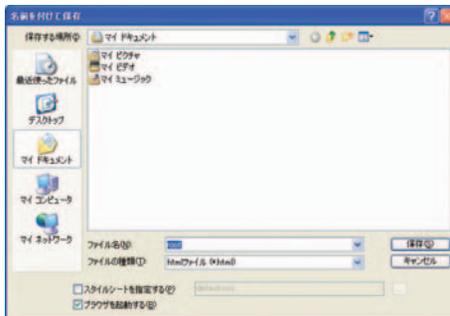


- 1 ビンウィンドウのフォルダビューの右クリックメニューから、[HTML出力]を選択します。



[名前をつけて保存] ダイアログが表示されます。

- 2 ファイル名や出力の設定を行い、[保存] ボタンをクリックします。



スタイルシートを使用し、お好みのスタイルで表示可能です。

4. 素材 (クリップ)

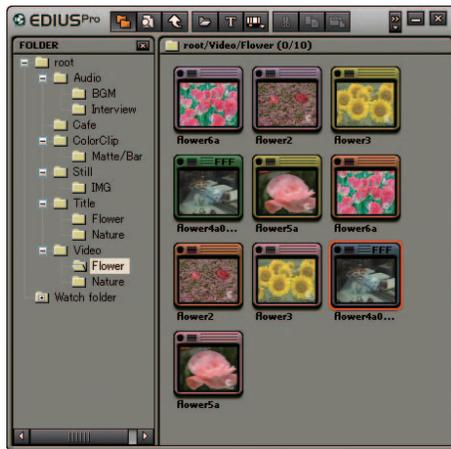
NEW!

クリップの色分け

ピンやタイムラインのクリップに色を付けることができます。色を設定したクリップをタイムラインに配置したりピンに登録した場合でも、その色を保持します。

ピンに表示されているクリップ

ピンに表示されているクリップに色をつけて分類します。



- 1 クリップを選択します。
- 2 右クリックメニューから [クリップ表示色] を選択し、色を指定します。

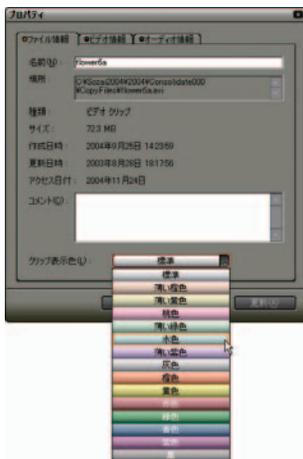


タイムラインに配置されているクリップ

タイムラインに配置されているクリップに色をつけて分類します。



- 1 クリップを選択し、右クリックメニューから [プロパティ] を選択します。
- 2 [ファイル情報] タブの [クリップ表示色] から色を指定します。



4. 素材 (クリップ)

NEW!

複数のビデオクリップを一つにする

複数のビデオクリップを一つのシーケンスクリップにすることができます。

- 1 複数のビデオクリップを選択します。



- 2 選択したクリップの右クリックメニューから [シーケンス化] を選択します。



シーケンスクリップとして登録されます。



*シーケンスクリップにすると、元のクリップが持っていた In/Out 点の設定は無効になります。

 関連知識

シーケンスクリップを元に戻すには、クリップの右クリックメニューから [シーケンス解除] を選択します。



*シーケンス解除後のクリップ名は、先頭のクリップをベースにした連番のクリップ名になります。

 リファレンス参照

静止画クリップのシーケンス化については、「連番静止画クリップの登録」P4-7を参照してください。

4. 素材 (クリップ)

ツールの使用



ツールの呼び出し

ピンウィンドウの [ツール] ボタンから、ツールの実行ができます。



参照



参照

- MPEG キャプチャについては、「HDV キャプチャと HQ AVI ファイル変換」 P2-7、または「3. MPEG キャプチャ」 P2-26 を参照してください。
- MPEG TS Writer については、「MPEG-TS 形式のファイルを出力」 P2-19 を参照してください。

リファレンス参照

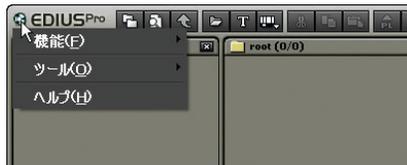


リファレンス参照

- EDIUS Watch については、「クリップの自動登録」 P4-10 を参照してください。
- DISCcapture については、「4. CD/DVD からのキャプチャ」 P5-25 を参照してください。

● EDIUS アイコン

ウィンドウの EDIUS アイコン  をクリックすると、ピンのすべての設定メニューを表示します。



ショートカットキー

[Shift] + [F3] キー

5. CD/DVD からのキャプチャ

EDIUS に付属の "DISCcapture" を使うと CD/DVD ディスクの映像や音声を取り込むことができます。

ご注意

コピープロテクションのかかったディスクからはキャプチャできません。

キャプチャできる形式

- Audio CD

WAV ファイルとして取り込みます。

- DVD-Video

MPEG2 ファイルとして取り込みます。

- DVD-VR

MPEG2 ファイルとして取り込みます。

関連知識

DVD-RW と DVD-RAM の DVD-VR 形式に対応しています。

ご注意

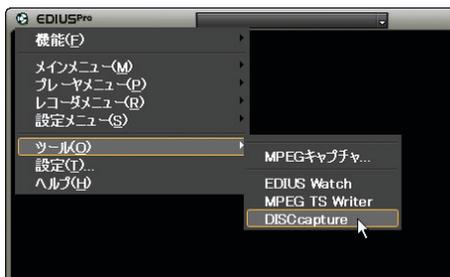


5. CD/DVD からのキャプチャ

キャプチャ操作

- 1 プレビューウィンドウのEDIUSアイコンをクリックし、[ツール]から[DISCcapture]を選択します。

"DISCcapture" が起動します。



- 2 キャプチャに使用するドライブを選択し、ディスクをセットします。

ディスク内の情報がリストに表示されます。挿入するディスクによって表示内容が異なります。



> Audio CD をセットした場合

- 3 キャプチャするトラックにのみチェックを入れ、[設定] ボタンをクリックします。



* リスト上の右クリックメニューから [すべてのトラックの選択状態を解除する] を選択すると、すべてのチェックが解除されます。



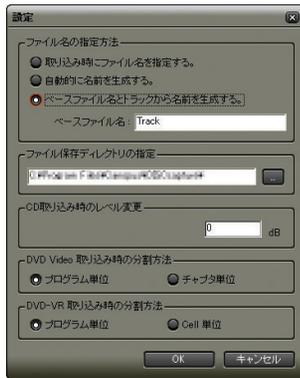
関連知識

トラックを選択し、[再生] ボタンをクリックすると、曲を再生することができます。



5. CD/DVD からのキャプチャ

- 4 ファイル名の指定方法や分割方法などを設定したあと [OK] ボタンをクリックします。



- 5 [取り込み] ボタンをクリックします。

キャプチャを開始します。ファイル名の指定方法で [取り込み時にファイル名を指定する] に設定した場合は、[ファイルを保存] ダイアログが表示されますのでファイル名と保存先を設定します。



[取り込み] ボタン

- 6 キャプチャ完了後は、メッセージを表示しますので [OK] ボタンをクリックします。



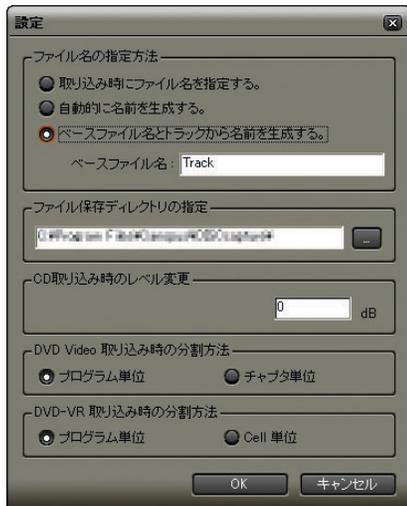
その他の方法

リスト上の右クリックメニューから「このトラックを取り込む」を選択してキャプチャします。「取り込みを開始する」を選択するとチェックが入っているトラックをすべてキャプチャします。

関連知識

- ExtraCD をセットした場合、オーディオトラックのみが表示されます。
- ドライブからの読み込み速度が調節できます（ドライブがサポートしている範囲のみ）。キャプチャ時にノイズが発生するときは、速度を落とすと改善される場合があります。

【設定】 ダイアログ



● ファイル名の指定方法

取り込み時のファイル名の指定方法を設定します。次の3種類から選択します。

【取り込み時にファイル名を指定する。】：

トラックごとにファイル名を指定します。

【自動的に名前を生成する。】：

現在の日時とトラック番号を組み合わせ、自動的にファイル名を生成します。

【ベースファイル名とトラックから名前を生成する。】：

ベースファイル名とトラック番号を組み合わせ、自動的にファイル名を生成します。

【ファイル保存ディレクトリの指定】：

取り込んだファイルを保存するディレクトリを指定します。

【CD 取り込み時のレベル変更】：

CD取り込み時に音声レベルをdB単位で変更します(0dBから-40dB)。

【DVD Video 取り込み時の分割方法】 / 【DVD-VR 取り込み時の分割方法】：

キャプチャ時の分割方法をそれぞれ指定します。通常は「プログラム単位」を選択します。「Cell単位」を選択するとファイルを細かく分割できますが、ストリームによっては取り込んだ際に再生できないMPEGファイル(MPEGの規格に満たないファイル)が作成される場合があります。

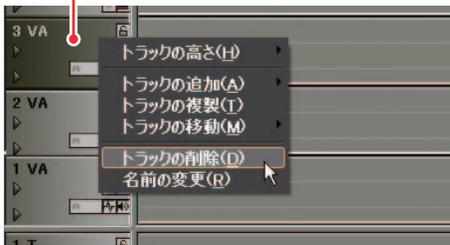
6. トラックの設定

トラックの削除

- 1 削除する位置のトラックパネルの右クリックメニューから、[トラックの削除]を選択します。

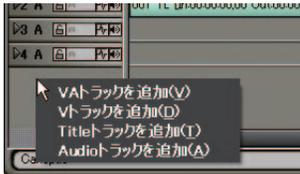
確認ダイアログが表示されます。

トラックパネル



関連知識

- ・ Tトラック、もしくはVトラック（またはVAトラックのどちらか）は、タイムラインのトラック上からすべて削除できます。他のトラックについては、タイムライン上に必ず1トラックは表示されます。
- ・ トラックパネルの空白部分で右クリックすると、トラックを追加するメニューが表示されます。



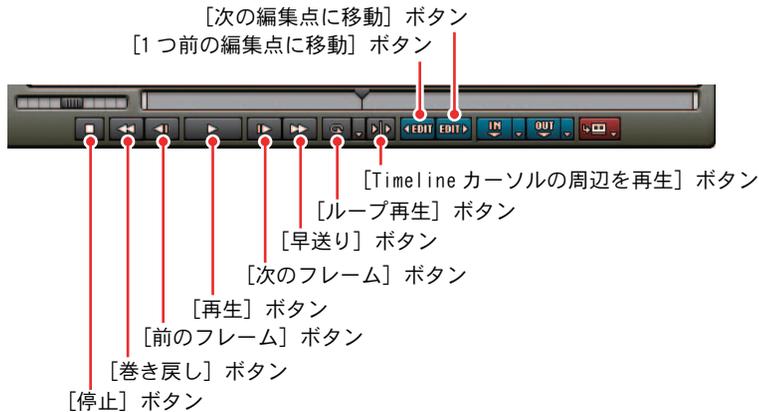
UPDATE!

NEW!

7. タイムラインのプレビュー

7. タイムラインのプレビュー

Recorder の操作ボタン



[停止] ボタン :

タイムラインの再生を停止します。

[巻き戻し] ボタン :

タイムラインを巻き戻します。再生中にこのボタンをクリックした場合、逆方向に4倍速、または12倍速で再生します。クリックするごとに4倍速と12倍速が切り替わります。

[前のフレーム] ボタン :

クリックするごとにタイムラインを逆方向に1フレームずつ戻します。

[再生] ボタン :

タイムラインを正方向に再生します。再生中にクリックした場合、一時停止します。

[次のフレーム] ボタン :

クリックするごとにタイムラインを正方向に1フレームずつ進めます。

[早送り] ボタン :

タイムラインを早送りします。再生中にこのボタンをクリックした場合、4倍速、または12倍速で再生します。クリックするごとに4倍速と12倍速が切り替わります。

[ループ再生] ボタン :

タイムラインの In 点と Out 点の間を繰り返し再生します。In 点を設定していない場合は、タイムラインの最初から、また Out 点を設定していない場合は、タイムラインの最後までを繰り返し再生します。リストボタンからタイムライン全体のループ再生を選択することもできます。

[Timeline カーソルの周辺を再生] ボタン :

タイムラインカーソルの前後を再生します。

[1つ前の編集点に移動] ボタン：

タイムラインカーソル位置から左方向の編集点にタイムラインカーソルが移動します。

[次の編集点に移動] ボタン：

タイムラインカーソル位置から右方向の編集点にタイムラインカーソルが移動します。

関連知識

再生処理が重い場合は、次の方法をお試しください。

- ・ [Shift] キーを押しながら [再生] ボタンをクリックする。一時的に再生用バッファをためてから再生します。
- ・ クリップやタイムラインの一部をレンダリングする。

タイムラインの先頭へタイムラインカーソルを移動させるにはキーボードの [Home] キーを、タイムラインの終端へタイムラインカーソルを移動させるにはキーボードの [End] キーを押してください。

ショートカットキー

停止：[K] キー、[Shift] + [Down] キー

巻き戻し：[J] キー

早送り：[L] キー

再生：[Enter] キー、[Space] キー

ループ再生：[Ctrl] + [Space] キー

前のフレーム：[←] キー

前の10フレーム：[Shift] + [←] キー

次のフレーム：[→] キー

次の10フレーム：[Shift] + [→] キー

前の編集点へジャンプ：[PageUp] キー

次の編集点へジャンプ：[PageDown] キー

* [L] キーを2回押したあと [J] キーを押すと、通常で再生しませず (減速)。

リファレンス参照

- ・ Player でのプレビュー操作については、「ソースのプレビュー」P5-3 を参照してください。
- ・ マウスでのプレビュー操作については、「マウス」P7-68 を参照してください。
- ・ レンダリング方法については、「タイムラインの一部をレンダリング」P7-77、「クリップのレンダリング」P7-81 を参照してください。
- ・ 表示させるボタンの指定については、「操作ボタンの配置」P3-26 を参照してください。



リファレンス
参照



7. タイムラインのプレビュー

NEW!

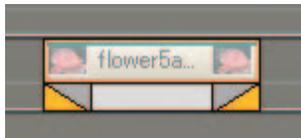
クリップの有効 / 無効

タイムラインに配置したクリップを無効にできます。無効にされたクリップは、プレビュー時に表示されません。

- 1 クリップを選択します。
- 2 右クリックメニューから [有効/無効] を選択します。選択するたび、有効/無効を切り替えます。



無効になったクリップは、全体が白っぽく表示されます。



関連知識

リンクやグループが設定されている複数のクリップのうち、選択したクリップのみ有効にすることができます。クリップを選択し、右クリックメニューから [このみ有効] を選択します。

レイアウト (クロップ)

- 1 タイムラインの VA、または Vクリップのビデオ部分の右クリックメニューから [レイアウト] を選択します。

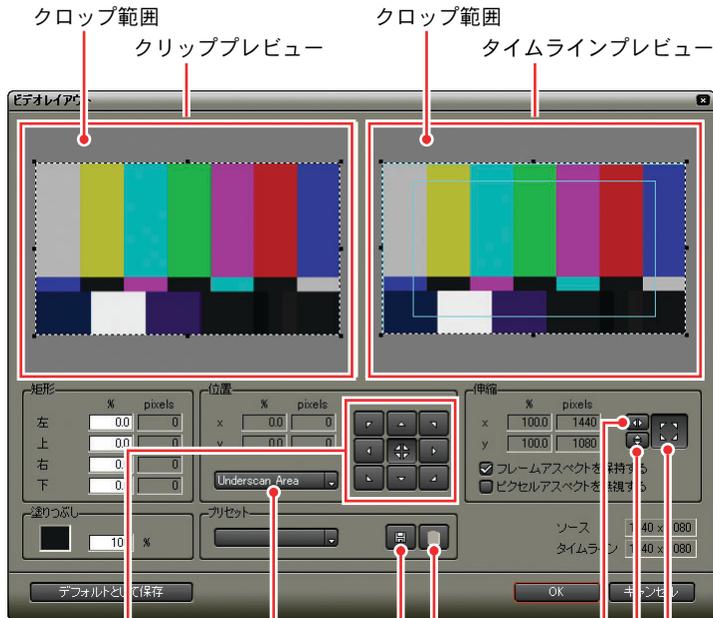


[ビデオレイアウト] ダイアログが表示されます。

- 2 Recorder を参照し、レイアウトを [ビデオレイアウト] ダイアログで調節します。

7. タイムラインのプレビュー

【ビデオレイアウト】 ダイアログ



[位置切り替え] ボタン

[エリア選択] ボタン

[プリセットの保存] ボタン

[保存したプリセットの削除] ボタン

[W] ボタン

[H] ボタン

[F] ボタン

【クリッププレビュー】:

クリップの映像を表示します。クロップ範囲のポイント（8箇所）をドラッグし、表示範囲を変更します。

【タイムラインプレビュー】:

タイムラインの映像を表示します。クロップ範囲をドラッグすると位置を変更します。また、クロップ範囲のポイント（8箇所）をドラッグし、表示倍率を変更します。

● 矩形

表示範囲を設定します。表示させない部分をカットするような使いかたができます。

【左】:

クリップの元の幅を基準に、左側から表示しない範囲をパーセント単位で設定します。

【上】:

クリップの高さを基準に、上側から表示しない範囲をパーセント単位で設定します。

[右] :

クリップの元の幅を基準に、右側から表示しない範囲をパーセント単位で設定します。

[下] :

クリップの高さを基準に、下側から表示しない範囲をパーセント単位で設定します。

● **位置**

[矩形] で設定した表示範囲の配置位置を設定します。

[位置切り替え] ボタン :

左上、中央上、…右下の方向を表します。セーフエリア ([エリア選択] ボタンで設定できます) の範囲でクリックした方向に詰めて配置します。複数の方向を同時に選択することはできません。

[位置切り替え] ボタンをクリックして 0n の状態にした場合、[矩形] や [伸縮] の設定を変えても、常にその位置を保持します。0n のボタンを再びクリックすると数値入力で位置を設定することができます。この場合は、タイムラインの幅、高さを基準にパーセント単位で設定します。

[エリア選択] ボタン :

基準エリアを [Underscan Area/Overscan Area/Titlesafe Area] から選択します。

● **伸縮**

タイムラインでの表示サイズを設定します。

[F] ボタン :

全体が入る最大の大きさに設定します。

[W] ボタン :

幅方向が入る最大の大きさに設定します。

7. タイムラインのプレビュー

[H] ボタン：

高さ方向が入る最大の大きさに設定します。

[F] ボタン、[W] ボタン、[H] ボタンは、最初のクリックでそのボタンの基準方向の大きさに自動設定し、再びクリックすると手動入力（左側の数値入力欄）ができます。パーセント単位で入力します。

[フレームアスペクトを保持する]：

手動入力の場合に、幅と高さ方向の同期をとります。

[ピクセルアスペクトを無視する]：

ピクセルアスペクトと無関係にピクセル等倍のマッピングをします。

[塗りつぶし]：

表示されない部分の色と不透明度を設定します。カラーサンプルをクリックすると [色の設定] ダイアログが表示されます。

[プリセット]：

[プリセットの保存] ボタンをクリックすると、設定内容をプリセットとして保存します。保存したプリセットはリストボタンをクリックすると選択できます。

[デフォルトとして保存] ボタン：

ボタンをクリックすると、現在の設定内容をデフォルトの設定として保存します。

*変更前のデフォルトの設定は、アスペクト比を保持したまま、全体が入る最大の大きさにする設定になっています。

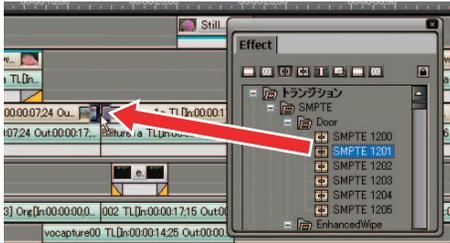


NEW!

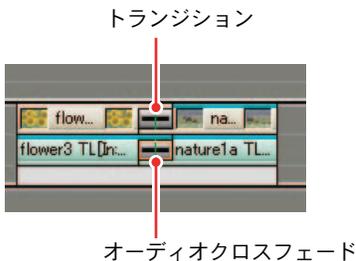
8. エフェクト

トランジションの使用 (クリップトランジション)

- 1 [Effect] パレットで選択したトランジションを、クリップの継ぎ目にドラッグします。



タイムラインの表示が次のように変わります。オーディオ部分にはデフォルトのオーディオクロスフェードが同時に追加されます。



その他の方法

1. トランジションを適用するクリップを選択します。



2. [Effect] パレットで使用するトランジションを選択し、右クリックメニューから [Timeline に追加する] を選択します。



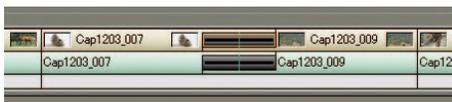
NEW!

8. エフェクト

3. 挿入する位置を「In側 /Out側 /両方」から選択します。
4. トランジションの開始位置を「From/Center/To」から選択します。



> In側 -Fromの場合



> In側 -Centerの場合



> In側 -Toの場合

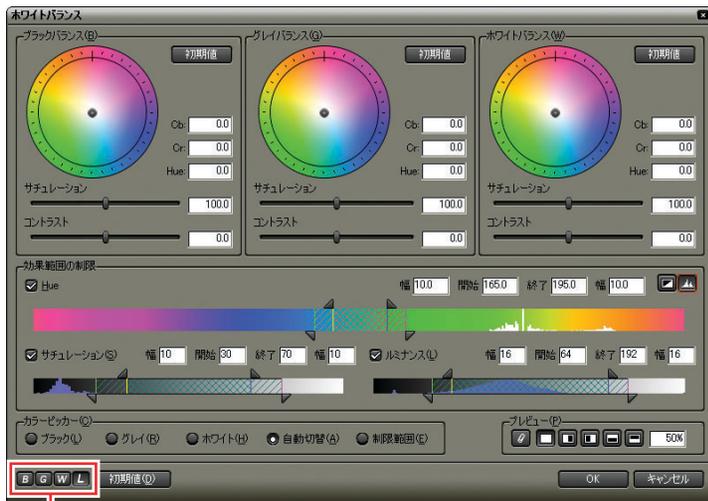
リファレンス 参照



参照

- ・オーディオ部分にデフォルトのオーディオクロスフェードを追加しないように設定するには「タイムライン」P3-5を参照してください。
- ・異なったトラック間にトランジションを設定する方法については「トラック間に使用(トラックトランジション)」P8-13を参照してください。
- ・トランジション上の緑のライン(カットポイント)は、トランジション設定前のクリップの境目を示しています。詳しくは「トランジション」P7-42の関連知識を参照してください。

[ホワイトバランス] ダイアログ



[ウィンドウスタイル変更] ボタン

● ブラックバランス / グレイバランス / ホワイトバランス

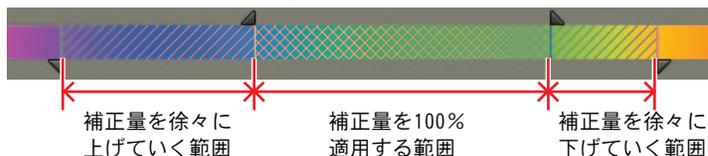
[初期値] ボタン：

各バランス枠のボタンを押すとそのバランスに関連するパラメータのみが初期値に設定されます。ウィンドウスタイル変更ボタンの右隣のボタンを押すと、すべてのパラメータが初期値に設定されます。

● 効果範囲の制限

指定した範囲にのみホワイトバランスを適用します。チェックを入れると、Hue (色相)、サチュレーション (彩度)、ルミナンス (輝度) に対して範囲を指定できます。各欄に値を直接入力するか、三角形のスライダや格子、斜線部分をドラッグして効果範囲を設定します。

[開始] から [終了] の範囲には補正量を 100% 適用します。[開始] / [終了] から [幅] の範囲には徐々に補正量を変化させていきます。



[キー表示] ボタンを使用すると、[効果範囲の制限] の設定によりプレビュー中のどの領域に効果が出るのかを確認できます。効果が 100% の領域は白、0% の領域は黒で表示されます。

[ヒストグラム表示] ボタンは、プレビューから計算したヒストグラムを、[Hue]、[サチュレーション]、[ルミナンス] の各項目で表示します。



8. エフェクト

● カラーピッカー

カラーピッカーを使って Player や Recorder の表示画像から色を選択することができます。ブラックを指定した場合には、カラーピッカーで取得した色が黒になるように調整します。同様にグレイでは灰色に、ホワイトでは白になるように調整します。自動切換の場合には、取得した色の明るさから自動判定します。たとえば明るい色を取得したときに白に調整します。[制限範囲] を選択し、プレビュー内の色をクリックするとその部分の画面の色のみが制限範囲として選択されます。キーボードの [Shift] キーを押しながらプレビュー内の色をクリックした場合は、現在の制限範囲に加えてその部分の画面の色も制限範囲に含めるように範囲が広がります。

NEW!

[プレビュー] :

Recorder の画面を分割して、2つの画像を同時に確認できます。フィルタの効果がかった状態とかかかっていない状態の確認や、別クリップの別フレームと見比べることができます。

[ウィンドウスタイル変更] ボタン :

ダイアログに表示する項目を切り替えます。

B : ブラックバランスだけを表示します。

G : グレイバランスだけを表示します。

W : ホワイトバランスだけを表示します。

L : すべてのバランス項目を表示します。

▶ : 1つのバランス項目だけを表示している場合に表示されます。元の表示に戻します。

NEW!

NEW!

関連知識

ホワイトバランスの調整方法

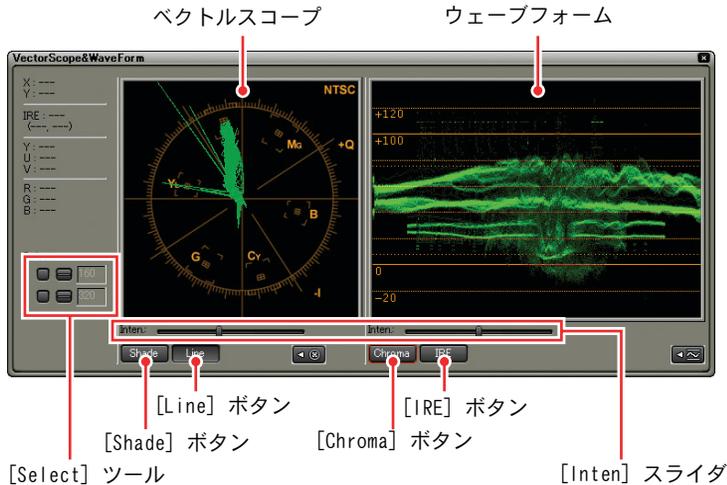
まず、カラーピッカーでプレビューウィンドウ上にある色をクリックし、色の情報を取得します。バランス枠に取得した色情報が表示されますので、カラーサークルコントロールでバランスを調整します。調整によって他の色に影響が出た場合は、Hue やサチュレーション、ルミナンスの順で調整範囲を制限して調整していきます。

9. カラーデータの確認

NEW!

ベクトルスコープ／ウェーブフォーム

パソコンモニターで問題なく表示されている映像が、実際にテレビモニターで表示した場合には不具合を生じることがあります。テレビモニターで表示させる場合は、あらかじめ適切な映像信号に調整しておく必要があります。目視では分からない映像信号の範囲を調整するため、ベクトルスコープ／ウェーブフォームで測定します。ベクトルスコープは映像のカラーバランスを、ウェーブフォームは映像の明るさをそれぞれ画面全体の平均値で表示します。



[Select] ツール：

任意の Y 軸（横方向）位置の情報を表示します。チェックボックスにチェックを入れ、[-] ボタンをクリックしてから、タイムラインモニタのスクリーン上をカーソルで指定します。座標を直接入力することもできます。

[Shade] ボタン：

ベクトルスコープのカラー分布をドット表示にします。

[Line] ボタン：

ベクトルスコープのカラー分布をドット間を接続したラインで表示します。

[Chroma] ボタン：

ウェーブフォームに彩度を表示します。

[IRE] ボタン：

ウェーブフォームに輝度を表示します。

[Inten] スライダ：

モニタの輝度を調節します。

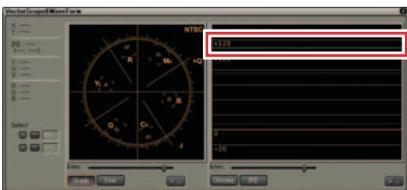
NEW!

9. カラーデータの確認

例えば、輝度が適切な範囲になっているかどうかをウェーブフォームで測定することができます。
タイムラインにカラーマットで作成した白いカラークリップを配置し、[ベクトルスコープ／ウェーブフォーム] ダイアログで測定すると、IRE100が表示されます。



輝度が高い場合は、次のように表示されます。



この場合は、IRE を 0 から 100 の範囲に調整する必要があります。簡単に調整するには、クリップにビデオフィルタのカラーバランスを適用します。次にカラーバランスのプロパティを開き、セーフカラーにチェックを入れるとクリップの IRE を 0 から 100 の範囲に自動調整します。



9. カラーデータの確認

黒いカラーリップの場合は、IRE0 が表示されます。IRE がマイナスになっている場合は、調整が必要です。



ご注意

ベクトルスコープ／ウェーブフォームを表示していると CPU に負荷がかかりますので、必要なときだけ表示させるようにしてください。

リファレンス参照

ベクトルスコープ／ウェーブフォームについては、「8. カラーデータの確認」P8-34 を参照してください。

ご注意



リファレンス参照



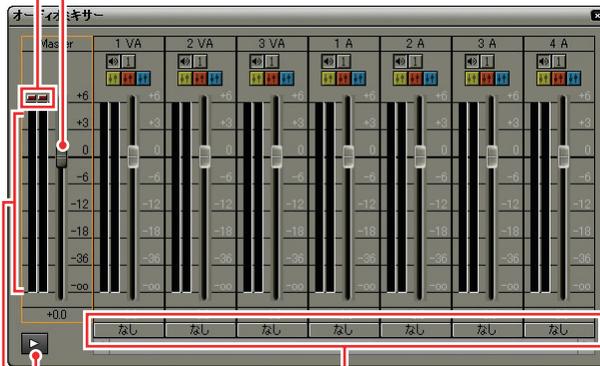
10. ボリューム調整

オーディオミキサー

ボリュームの調整

全トラックのボリュームを調整するには、Master のフェーダを上下させます。
各トラックのボリュームを調整するには、各トラックのフェーダを上下させます。

レベルオーバーインジケータ
フェーダ



[再生] ボタン

[動作設定] ボタン

レベルメーター

レベルメーター：

左右独立したレベルメーターを表示します。ピークホールド機能は通常の再生を行った場合に機能します。

レベルオーバーインジケータ：

レベルオーバーした場合に点灯します。クリックすると消灯します。

[再生] ボタン：

タイムラインカーソル位置からタイムラインを再生します。

[動作設定] ボタン：

ボタンをクリックすると表示されるメニューから、ラーニングモードを切り替えます。



NEW!

NEW!

[Track] : トラックのボリュームを調整します。ラーニングは行いません。

[なし] : オーディオミキサーは使用できません。

[Latch] : ボリューム調整開始から再生停止までのラーニングを行います。

[Touch] : ボリューム調整中のラーニングを行います。

[Write] : 再生開始から停止までのラーニングを行います。以前のボリューム値をすべて上書きします。

「ボリューム調整開始」とはフェーダをドラッグし始めたとき、「ボリューム調整中」とはフェーダをドラッグしてドロップするまでを意味します。

[Latch]、[Touch]、[Write] のどれかを設定している場合、再生を停止すると [なし] の設定に戻ります。

その他の方法

フェーダは、キーボードのカーソルキーで調整することができます。

- ・ 左右のカーソルキーでトラックを選択します。
- ・ 上下のカーソルキーを押すごとに1dBずつ変更されます。また、Shiftキーを押しながら上下カーソルキーを押すと0.1dBごとに変更されます。
- ・ キーボードのカーソルキーの他に、マウスホイールでも同じ操作が可能です。

関連知識

フェーダの位置をリセットするには、オーディオミキサー上の右クリックメニューから [リセット] または [全てをリセット] を選択します。



関連知識

オプションのフェーダコントローラを使用してフェーダを操作することができます。

使用方法是、製品付属のマニュアルをご覧ください。

11. 出力

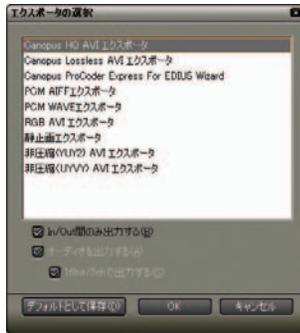
形式の選択

- 1 Recorder の [Export] ボタンをクリックします。



- 2 [ファイルに出力]、または [ファイルに出力 (タイムコードを表示)] をクリックします。

[エクスポートの選択] ダイアログが表示されます。



[In/Out 間のみ出力する] :

チェックを入れると、タイムラインの In/Out 点間のみ出力します。

[オーディオを出力する] :

チェックを入れると、オーディオ部分も同時に出力します。多チャンネルのプロジェクトをエクスポートし、他社製のソフトウェアで使用する場合は、[16bit/2ch で出力する] にチェックを入れてください。

**[デフォルトとして保存] ボタン：**

ボタンをクリックすると、[Export] ボタンから [デフォルトエクスポート] を選択することができます。



- 3 出力するファイル形式に応じてエクスポートを選択し、[OK] ボタンをクリックします。

以降は、選択したエクスポートによって手順が異なります。表示される画面にしたがって、操作してください。

関連知識

出力するファイルのエクスポートがない場合や任意でファイルのパラメータを設定する場合は、[Canopus ProCoder Express for EDIUS Wizard] を選択してください。

11. 出力

NEW!

FlashVideo エクスポート

ご注意



ご注意

FlashVideo エクスポートを使用するには、あらかじめ「Macromedia Flash MX」がパソコンにインストールされており、Macromedia 社の Flash Video Exporter が使用できる環境である必要があります。

「Macromedia Flash MX」、「Flash Video Exporter」につきましては、Macromedia 社のマニュアル等をご覧ください。

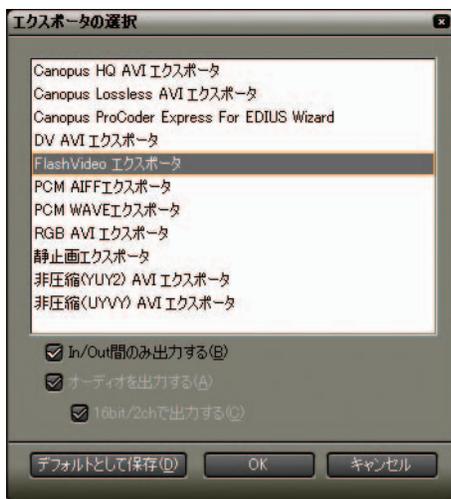
リファレンス 参照



リファレンス参照

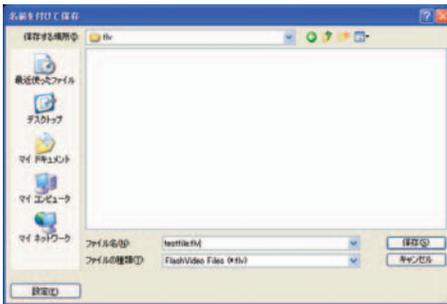
ファイル形式の出力、およびエクスポートの選択については、「1. ファイル形式で出力」 P11-2 を参照してください。

- 1 [エクスポートの選択] ダイアログで [FlashVideo エクスポート] を選択し、[OK] ボタンをクリックします。



[名前をつけて保存] ダイアログが表示されます。

- 2 ファイル名、および保存場所を設定し、[保存] ボタンをクリックします。



関連知識

[名前をつけて保存] ダイアログで [設定] ボタンをクリックすると設定ダイアログを表示します。



* [Encoding Method] で、[Best (2 Pass)] を選択しても機能しません。

デッキ制御できる機器へ出力

リファレンス
参照



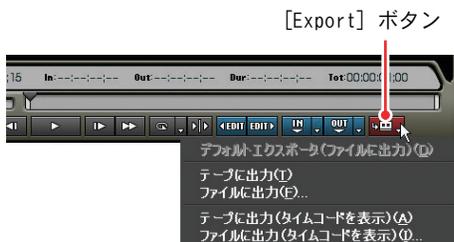
リファレンス参照

「3. デッキ制御できる機器へ出力」 P11-17 に記載されている出力方法は変更されました。



Generic OHCI の場合

- 1 Recorder の [Export] ボタンをクリックし、[テープに出力]、または [テープに出力 (タイムコードを表示)] を選択します。



[テープ出力ウィザード] ダイアログが表示されます。

- 2 パラメータを確認し、[出力] ボタンをクリックします。



[テープ出力] ダイアログが表示され、タイムラインの再生と出力を開始します。最後まで出力すると [テープ出力] ダイアログが閉じます。



関連知識

- ・ 出力を中断するときは、[中止] ボタンをクリックしてください。
- ・ タイムラインに In 点、Out 点の設定をしている場合は、その範囲を出力します。

9 ピン制御機器の場合

ご注意

- ・ RS422A 端子に VTR が正しく接続されていないときは、VTR 操作ができません。
- ・ VTR との同期があっていない場合は、書き出しに失敗することがあります。



ご注意



- 1 Recorder の [Export] ボタンをクリックし、[テープに出力]、または [テープに出力 (タイムコードを表示)] を選択します。

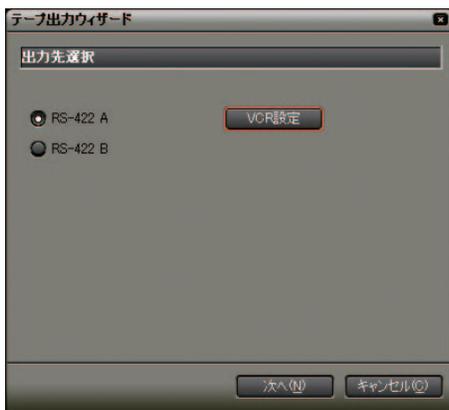
[Export] ボタン



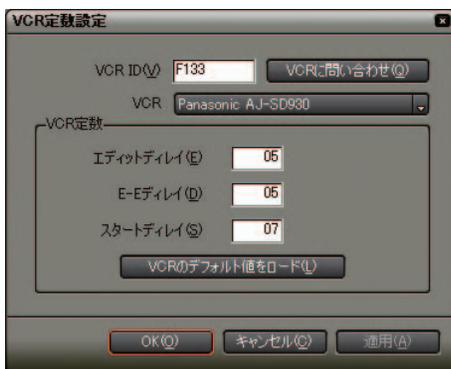
[テープ出力ウィザード] ダイアログが表示されます。

11. 出力

- 2 出力先の VTR が接続されているリモート端子を選択し、[VCR 設定] ボタンをクリックします。



[VCR 定数設定] ダイアログが表示されます。リモート端子のそれぞれで設定可能です。



[VCR ID] :

VTR Constant 1 byte1, byte2 が表示されます。
ソニー製 VTR では deck ID (model/mode が含まれる) が表示されます。

[VCR に問い合わせ] ボタン :

[VCR に問い合わせ] ボタンをクリックすると、接続した VTR から VTR ID (deck ID) を読み込みます。

[VCR] :

VTR ID に該当する VTR 名を表示します (プリセットされている ID と VTR 名のみ)。同じ ID の VTR が複数登録されている場合はすべてを表示します。

- [VCR 定数]

[エディットディレイ] :

VTR Constant 1 Byte 5 が表示されます。
プリセットに無い VTR の場合は手動で入力します。

[E-E ディレイ] :

VTR Constant 1 Byte 6 が表示されます。
プリセットに無い VTR の場合は手動で入力します。

[スタートディレイ] :

VTR Constant 2 Byte 2 (VTR によっては Data 10) が表示されます。プリセットに無い VTR の場合は手動で入力します。

[VCR のデフォルト値をロード] ボタン :

エディットディレイ、E-E ディレイ、スタートディレイをプリセットの値で初期化します。

3 [VCR に問い合わせ] ボタンをクリックします。

[VCR] ボタンに VTR 名が表示され、[VCR 定数] に規定の値が入力されます。

* 複数の該当機種がある場合は、リストボタンが表示されます。[VCR] ボタンのリストボタンをクリックして VTR を選択します。

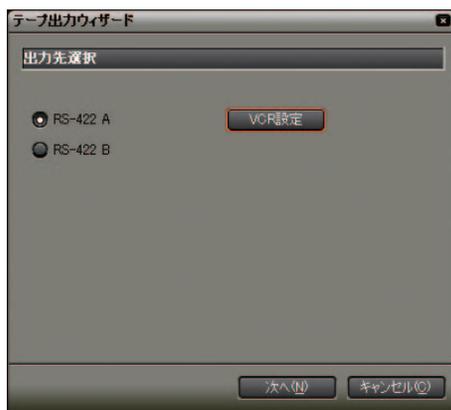
4 [VCR 定数] の値を確認し、[VCR のデフォルト値をロード] ボタンをクリックします。

* [VCR のデフォルト値をロード] ボタンをクリックしないと設定されません。

5 [OK] ボタンをクリックします。

[VCR 定数設定] ダイアログを閉じます。

6 [次へ] ボタンをクリックします。



11. 出力

7 パラメータを設定し、[次へ] ボタンをクリックします。



[アセンブル]：

テープ（タイムコード有り）に続けて追記します。

[ファーストエディット]：

テープ（タイムコード無し、または新規上書き）に書き出します。

[インサート]：

テープに追記（挿入）します。

[書き込み開始点]：

テープの書き込み位置を設定します。

[TC プリセット]：

アセンブルを選択、またはインサートを選択し、TCにチェックを入れた場合に、テープに書き込むタイムコードを設定します。

[調定精度]：

アセンブル、またはインサートを選択した場合にテープへ書き込むフレームずれの許容値を設定します。

Exact：

ずれを許容しません。フレームずれが発生すると書き出しはできません。

Rough：

フレームずれ±1を許容します。

[UB プリセット]：

ユーザーズビットを追加します。

[Regen]：

テープの Rec In 点で取得したユーザービットを、書き出しの開始点（プリセット値）として設定します。

- 8 パラメータを確認し、[出力] ボタンをクリックします。



[テープ出力] ダイアログが表示され、タイムラインの再生と出力を開始します。最後まで出力すると [テープ出力] ダイアログが閉じます。



関連知識

- ・ 出力を中断するときは、[中止] ボタンをクリックしてください。
- ・ タイムラインに In 点、Out 点の設定をしている場合は、その範囲を出力します。

Canopus ProCoder Express For EDIUS

UPDATE!

HDV 形式の変換を行う場合の選択肢を変更しました。



＞ HD1、もしくは HD2 モードを選択



＞ HD1 モードの場合

プリセットを追加、変更しました。

- HDV 720/24p (720 ライン, プログレッシブ, 24fps)
- HDV 720/25p (720 ライン, プログレッシブ, 25fps)
- HDV 480/60p 16:9 (480 ライン, プログレッシブ, 60fps)
- HDV 576/50p 16:9 (576 ライン, プログレッシブ, 50fps)
- HDV 576/50p 4:3 (576 ライン, プログレッシブ, 50fps)
- HDV 576/25p 16:9 (576 ライン, プログレッシブ, 25fps)



> HD2 モードの場合

プリセットを追加しました。

- HDV 1080/24p(1080 ライン, プログレッシブ, 24fps)
- HDV 1080/25p(1080 ライン, プログレッシブ, 25fps)
- HDV 1080/30p(1080 ライン, プログレッシブ, 30fps)

12. Quick Titler

背景プロパティ

テキストのロール / クロール



[タイトルの種類] :

静止：テキストを表示します。

ロール（下から）：テキストを下から上に動かします。

ロール（上から）：テキストを上から下に動かします。

クロール（右から）：テキストを右から左に動かします。

クロール（左から）：テキストを左から右に動かします。



リファレンス参照



リファレンス参照

ロール、クロールについては、「テキストのロール / クロール」 P9-24 を参照してください。

ご注意

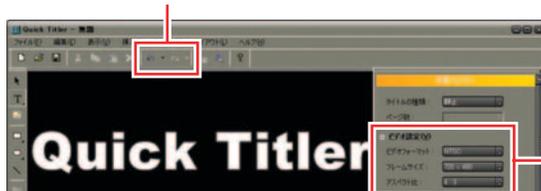


ご注意

以下の機能は、Quick Titler を単体で起動（スタートメニューから起動）した場合に有効になります。

ビデオ設定

[元に戻す] / [繰り返す] ボタン



ビデオ設定

[ビデオ設定] の設定は、[元に戻す]、[繰り返す] に対応しています。

EDIUS

第2章

HDV キャプチャと出力 / MPEG キャプチャ

1. HDV 形式をキャプチャ

1. HDV 形式をキャプチャ

HDV 形式は、HD 映像を DV テープで録画、再生する規格で、DV 形式と同じデータ量にするため、MPEG2 技術を利用して圧縮しています。HDV はキャプチャ時、MPEG-TS 形式で映像をパソコンに出力します。

EDIUSはMPEG-TS形式のファイルをそのままクリップとして編集することができますが、タイムラインのプレビュー時にパソコンの動作が重くなることがあります。あらかじめMPEG-TS形式のファイルをHQ AVIファイルに変換しておく、編集をより軽快に行うことができます。

HQ AVI ファイル形式は、HD 画質を高画質（HDCAM と同等以上）のまま軽快に編集できる Canopus HQ Software Codec で圧縮したファイル形式です。

動作環境

HDV 映像を、HQ AVI ファイルとしてキャプチャするには、HQ キャプチャ機能（Canopus HQ Software Codec を使ったりアルタイム・トランスコードキャプチャ機能）が便利です。HQ キャプチャを行うには、推奨以上の動作環境が必要です。

動作環境（CPU スペック）

- ・ DV/SD MPEG 編集の場合
最低：Intel Celeron 1.7 GHz 以上
推奨：Pentium 4 2.4 GHz 以上
- ・ HDV 編集の場合
最低：Intel Pentium 4 3.0 GHz（Hyper-Threading 対応）以上
推奨：Intel Pentium D 3.0 GHz（デュアルコア、EM64T）以上
推奨：Intel Xeon 2.80 GHz（Hyper-Threading 対応）x2

ご注意



ご注意

HDV 機器をパソコンに接続する場合は、当社製メインボード（SHX-E1、NHX-E1、NHX-E2）とエクステンションボードを組み合わせて装着した場合のメインボードの DV 端子、もしくは汎用 OHCI の IEEE1394 端子に接続してください。上記の組み合わせを除く当社製 DV 編集システムの DV 端子は、DV 機器専用の接続端子ですので、この端子に接続して使用することはできません。

参照

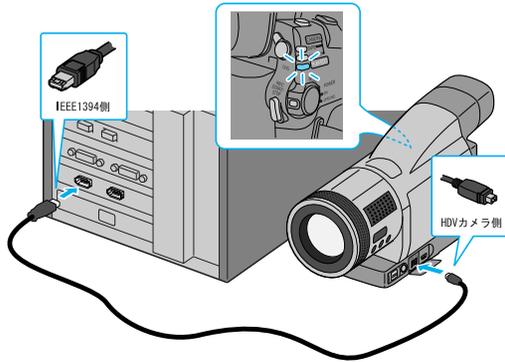


参照

HQ キャプチャが行えない場合は、HDV キャプチャと HQ AVI ファイルへの変換を分けて行ってください。詳しくは、「HDV キャプチャと HQ AVI ファイル変換」P2-7 を参照してください。

HQ キャプチャ

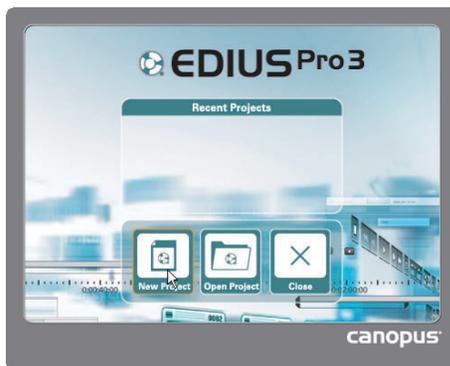
- 1 DV ケーブルで、パソコンの IEEE1394 端子と HDV 機器を接続します。HDV 機器は、ビデオモード（PLAY/EDIT 等）にしておきます。



関連知識

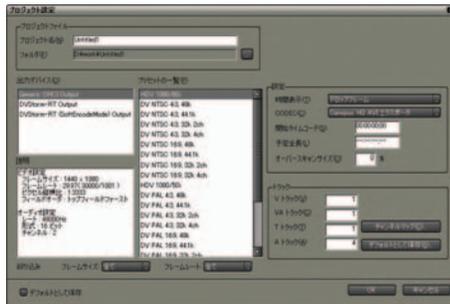
- ・当社製メインボード（SHX-E1、NHX-E1、NHX-E2）と拡張ボードを組み合わせて装着している場合は、メインボードの DV 端子を使用し、HDV 機器を接続してください。
- ・お使いの HDV 機器が HDV モードに設定できる場合には HDV モードにしてください。設定方法については HDV 機器の取扱説明書をご覧ください。

- 2 EDIUS を起動し、[NewProject] をクリックします。



1. HDV 形式をキャプチャ

3 プロジェクト名を入力します。



4 [出力デバイス] で、[Generic OHC1 Output] を選択します。

5 [プリセットの一覧] で、使用するプリセットを選択し、[OK] ボタンをクリックします。ここでは、[HDV 1080/60i] を選択します。

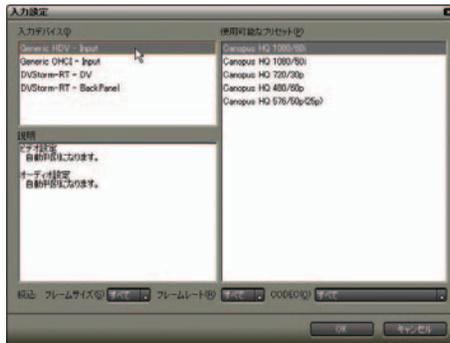
6 Player の [チャンネル/ファイルの選択] ボタンをクリックし、[Generic HDV-Input] を選択します。

[チャンネル/ファイルの選択] ボタン



[入力設定] ダイアログが表示されます。

7 [入力デバイス] で、[Generic HDV-Input] を選択します。



- 8 [使用可能なプリセット] で [Canopus HQ1080/60i] を選択し、[OK] ボタンをクリックします。

EDIUS の Player から HDV 機器を操作できるようになります。

ご注意

HDV カメラを認識しない場合は、デバイスマネージャーの [サウンド・ビデオおよびゲームコントローラ] の項目に [AV/C テープデバイス] として認識されているかどうかご確認ください。

認識されていない場合には、Windows XP Service Pack2 が適用されているかどうか、HDV カメラが HDV 固定モード (HDV-DV 変換は OFF) になっているかどうかご確認ください。

- 9 デッキコントロールボタンでキャプチャの開始点を表示させ、[キャプチャ] ボタンをクリックします。



[キャプチャ] ボタン

キャプチャを開始します。[キャプチャ] ダイアログが表示されます。



- 10 キャプチャを終了するところで、[Stop] ボタンをクリックします。

ビンにクリップが登録されます。キャプチャしたファイルはプロジェクトフォルダに保存されます。

ご注意



1. HDV 形式をキャプチャ

リファレンス 参照



リファレンス参照

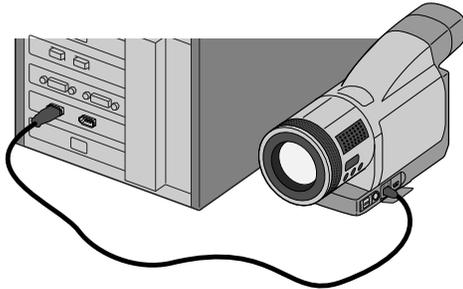
キャプチャ時にファイルを自動的に分割できます。分割条件の設定については「デッキ設定」P3-10を参照してください。

関連知識

バッチキャプチャ機能は、タイムコードが取得できる機種のみに対応しています。機種によっては、タイムコードに対応していないものがあります。

HDV キャプチャと HQ AVI ファイル変換

- 1 DV ケーブルで、パソコンの IEEE1394 端子と HDV 機器を接続します。HDV 機器は、ビデオモード（PLAY/EDIT 等）にしておきます。



関連知識

- ・当社製メインボード（SHX-E1、NHX-E1、NHX-E2）と拡張ボードを組み合わせて装着している場合は、メインボードの DV 端子を使用して HDV 機器を接続してください。
- ・お使いの HDV 機器が HDV モードに設定できる場合には HDV モードにしてください。設定方法については HDV 機器の取扱説明書をご覧ください。

- 2 [スタート] メニューから [すべてのプログラム] を開きます。
- 3 [Canopus] から [MPEGcapture] に進み、[MPEGcapture] をクリックします。



[MPEG Capture] ダイアログが表示されます。

1. HDV 形式をキャプチャ

- 4 [保存] ボタンをクリックし、保存先とファイル名を指定します。



[保存] ボタン

- 5 [デバイス] で、[Microsoft AV/C Tape Subunit Device] を選択します。

ご注意



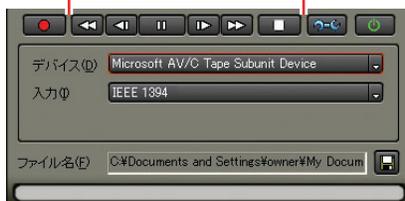
ご注意

- ・ HDV カメラを認識しない場合は、デバイスマネージャーの [サウンド・ビデオおよびゲームコントローラ] の項目に [AV/C テープデバイス] として認識されているかどうかご確認ください。
認識されていない場合には、Windows XP Service Pack2 が適用されているかどうか、HDV カメラが HDV 固定モード (HDV-DV 変換は OFF) になっているかどうかをご確認ください。
- ・ HDV 固定モードがない HDV カメラで HDV キャプチャが行えない場合は、次の設定をお試しの上、HDV キャプチャを行ってください。
[MPEGcapture] ダイアログのタイトルバーから右クリックメニューを開きます。次に [前回使用したデバイスで起動する] のチェックを外し、MPEGcapture を起動し直してください。

- 6 [入力] で、[IEEE 1394] を選択します。

デッキコントロールボタンがアクティブになります。

デッキコントロールボタン



- 7 [設定] ボタンをクリックします。



[録画詳細設定] ダイアログが表示されます。

- 8 [キャプチャ] タブで、[トランスポートストリーム] にチェックを入れ、[OK] ボタンをクリックします。



- 9 デッキコントロールボタンでキャプチャの開始点を表示させ、[キャプチャ/停止] ボタンをクリックします。



[キャプチャ] ボタンが [停止] ボタンに切り替わります。

- 10 キャプチャを終了するには、[キャプチャ/停止] ボタンをクリックします。
- 11 [OK] ボタンをクリックします。

1. HDV 形式をキャプチャ

12 [閉じる] ボタンをクリックします。

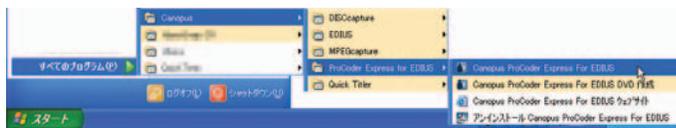


[閉じる] ボタン

続けて、キャプチャしたファイルを変換します。

13 [スタート] メニューから [すべてのプログラム] を開きます。

14 [Canopus] から [ProCoder Express for EDIUS] に進み、[Canopus ProCoder Express For EDIUS] をクリックします。



[Canopus ProCoder Express For EDIUS] ダイアログが表示されます。

15 [特定のファイルのフォーマットを変換する] にチェックを入れ、[次へ] ボタンをクリックします。



- 16** [選択] ボタンをクリックし、先ほどキャプチャしたファイルを指定します。[次へ] ボタンをクリックします。



- 17** [目的で選択する] にチェックを入れ、[次へ] ボタンをクリックします。



- 18** [HD(High Definition)] にチェックを入れ、[次へ] ボタンをクリックします。



1. HDV 形式をキャプチャ

19 [Canopus HQ] にチェックを入れ、[次へ] ボタンをクリックします。



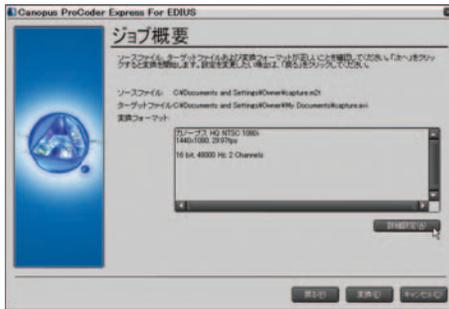
20 [1080i NTSC(1080 ライン, 60i)] にチェックを入れ、[次へ] ボタンをクリックします。



21 ファイルの保存場所、ファイル名を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。

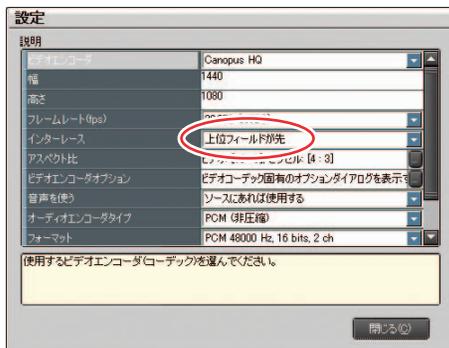


22 [詳細設定] ボタンをクリックします。

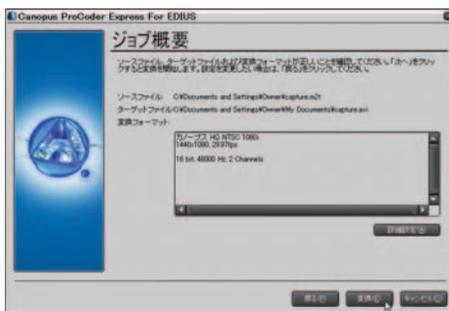


ダイアログが表示されます。

23 [上位フィールドが先] になっていることを確認します。[閉じる] ボタンをクリックします。



24 [変換] ボタンをクリックします。



変換を開始します。

1. HDV 形式をキャプチャ

25 [次へ] ボタンをクリックします。



26 [終了] ボタンをクリックします。



録画詳細設定ダイアログ (HDV キャプチャの設定)

● [キャプチャ] タブ



[キャプチャ種別] :
ストリーム方法を選択します。

● Canopus HQ CODEC 設定

[Fine] :
最も高画質な設定ですが、ファイルサイズも大きくなります。高画質の取り込みが必要な場合に選択します。

[Standard] :
通常はこの設定で十分な画質を得ることができます。

[Custom] :
チェックを入れると、[Q]、[Max size] を調節することができます。

[Q] :
画質を調節します。少ないほど高画質になります。

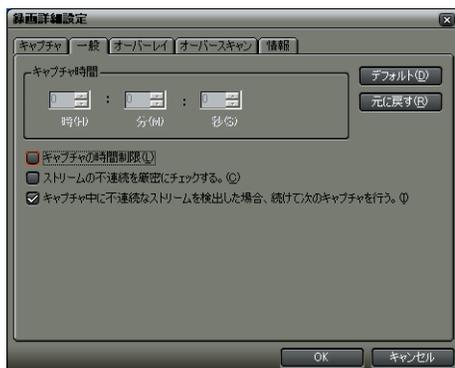
[Max size] :
最大ビットレートを調節します。ノイズの多い画像はファイルサイズが不用意に大きくなる場合がありますが、これを制限するように設定ができます。設定値 [100]% は、コーデック圧縮前と同じビットレートを表します。たとえば、1440 × 1080 60i で、100% は約 750 Mbps です。この上限を 200 Mbps に制限する場合は [27]% に設定します。

[デフォルト] ボタン :
初期値にします。

[元に戻す] ボタン :
変更前の設定に戻します。

1. HDV 形式をキャプチャ

● [一般] タブ



[キャプチャ時間] :
キャプチャを行う時間を設定します。

[キャプチャの時間制限] :
[キャプチャ時間] で設定した時間でキャプチャを停止します。

[ストリームの不連続を厳密にチェックする。] :
テープ再生中のノイズ等によるストリームの乱れも不連続として検出します。

[キャプチャ中に不連続なストリームを検出した場合、続けて次のキャプチャを行う。] :
キャプチャ中に不連続なストリームを検出した場合、キャプチャを停止せず、新しいファイルを作ってキャプチャを続けます。

[デフォルト] ボタン :
初期値にします。

[元に戻す] ボタン :
変更前の設定に戻します。

● [オーバーレイ] タブ



【効果】：
設定にかかわらず、HDV カメラの仕様に準じます。

【画質】：
オーバーレイの画質を調節します。キャプチャデータ（ファイル）には影響しません。

【デフォルト】 ボタン：
初期値にします。

【元に戻す】 ボタン：
変更前の設定に戻します。

1. HDV 形式をキャプチャ

● [オーバースキャン] タブ



[無効領域幅] :

オーバーレイのオーバースキャンを調節します。キャプチャデータ（ファイル）には影響しません。

[デフォルト] ボタン :

初期値にします。

[元に戻す] ボタン :

変更前の設定に戻します。

● [情報] タブ



[バージョン情報] :

プラグインのバージョン情報を表示します。

2. HDV 形式を出力

編集結果を HDV 機器へ出力する形式 (MPEG-TS 形式) に変換し、変換したファイルを HDV 機器へ出力します。

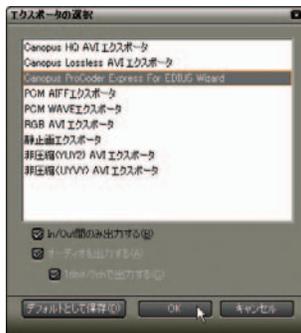
MPEG-TS 形式のファイルを出力

- 1 Recorder の [In 点の設定] ボタン、および [Out 点の設定] ボタンで、出力範囲を設定します。
- 2 [Export] ボタンをクリックし、[ファイルに出力] を選択します。



[エクスポートの選択] ダイアログが表示されます。

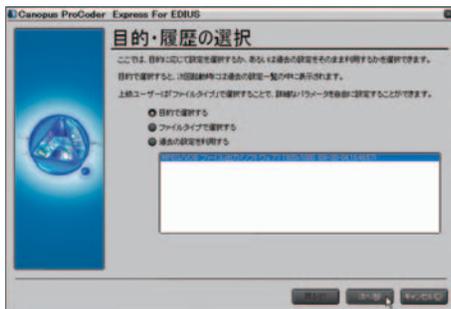
- 3 [Canopus ProCoder Express For EDIUS Wizard] を選択し、[OK] ボタンをクリックします。



Canopus ProCoder Express For EDIUS が起動します。

2. HDV 形式を出力

- 4 [目的で選択する] にチェックを入れ、[次へ] ボタンをクリックします。



- 5 [HDV 1080ライン (HD2 モード)] にチェックを入れ、[次へ] ボタンをクリックします。

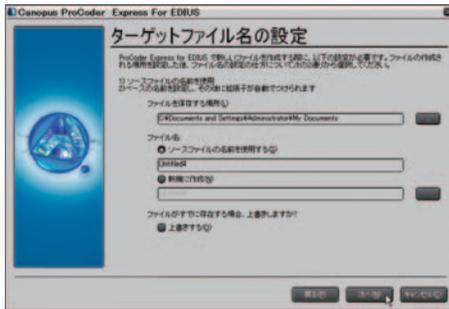
* HD2 モードはソニー、キヤノン製機器に、HD1 モードはビクター (JVC) 製機器に対応しています。



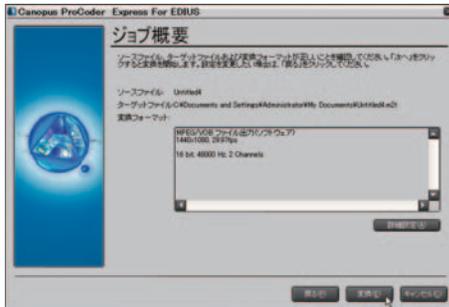
- 6 [HDV 1080/60i (1080ライン, インターレース, 29.97fps)] にチェックを入れ、[次へ] ボタンをクリックします。



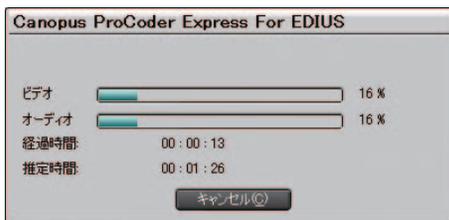
- 7 ファイルの保存場所、ファイル名を設定し、[次へ]ボタンをクリックします。



- 8 ジョブ概要を確認し、[変換]ボタンをクリックします。



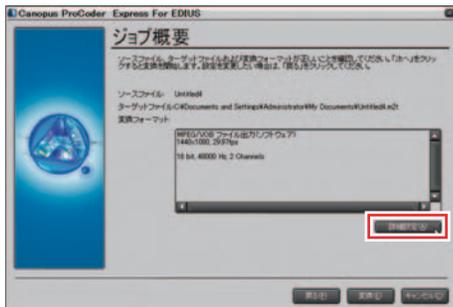
ファイルが出力されます。出力には、再生時間の3～8倍の時間が必要です。



2. HDV 形式を出力

関連知識

設定を変更する場合は、[詳細設定] ボタンをクリックします。



通常はデフォルトの設定で問題ありません。



- 9** DV ケーブルで、パソコンの IEEE1394 端子と HDV 機器を接続します。HDV 機器は、ビデオモード (PLAY/EDIT 等) にしておきます。

関連知識

- ・当社製メインボード (SHX-E1、NHX-E1、NHX-E2) と拡張ボードを組み合わせて装着している場合は、メインボードの DV 端子を使用し、HDV 機器を接続してください。
- ・お使いの HDV 機器が HDV モードに設定できる場合には HDV モードにしてください。設定方法については HDV 機器の取扱説明書をご覧ください。

10 EDIUS マークをクリックし、[ツール] から [MPEG TS Writer] を選択します。

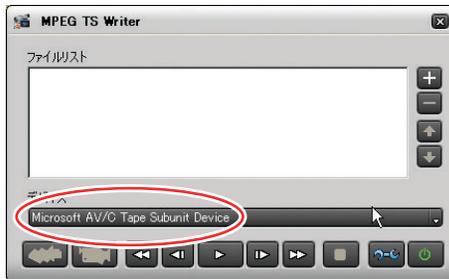


[MPEG TS Writer] ダイアログが表示されます。

その他の方法

ピンウィンドウの[ツール] ボタンから、[MPEG TS Writer] を実行できます。

11 [デバイス] で、[Microsoft AV/C Tape Subunit Device] を選択します。



ご注意

HDV カメラを認識しない場合は、デバイスマネージャーの [サウンド・ビデオおよびゲームコントローラ] の項目に [AV/C テープデバイス] として認識されているかどうかご確認ください。

認識されていない場合には、Windows XP Service Pack2 が適用されているかどうか、HDV カメラが HDV 固定モード (HDV-DV 変換は OFF) になっているかどうかご確認ください。

ご注意



2. HDV 形式を出力

- 12** [追加] ボタンをクリックし、先ほど出力したファイルを選択します。

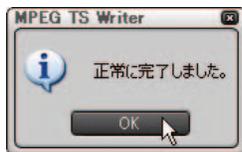


[デバイスに記録する] ボタン

- 13** [デバイスに記録する] ボタンをクリックします。

出力を開始します。

- 14** [OK] ボタンをクリックします。



- 15** [閉じる] ボタンをクリックします。



[閉じる] ボタン

関連知識

[デバイスに記録せず出力する] ボタンをクリックすると、HDV カメラのコンポーネント出力から映像を出力します（テープには記録されません）。



[デバイスに記録せず出力する] ボタン

3. MPEG キャプチャ

3. MPEG キャプチャ

MPEG 形式でキャプチャを行います。

動作環境

MPEG キャプチャは次の当社製品でご使用になれます。

- MTV シリーズ (ハードウェアエンコード機能搭載機種のみ)
- MTU シリーズ
- MVR-D2000
- DigitalVideo Recorder (EMR100)
- VELXUS シリーズ

MPEG Capture

- 1 Player の [チャンネル/ファイルの選択] ボタンをクリックし、[MPEG キャプチャ] を選択します。



[MPEG Capture] ダイアログが表示されます。

- 2 [保存] ボタンをクリックし、保存先とファイル名を指定します。



- 3 [デバイス] で、使用するデバイス（例：MTV Series）を選択します。
- 4 [入力] を選択します。

3. MPEG キャプチャ

- 5 [設定] ボタンをクリックし、キャプチャの設定を行います。

[キャプチャパラメータの設定] ダイアログが表示されます。



- 6 プレビューを確認しながら、タイミングを見計らって [キャプチャ/停止] ボタンをクリックします。

[キャプチャ] ボタンが [停止] ボタンに切り替わります。

[キャプチャ/停止] ボタン



関連知識

[巻き戻し] から [停止] 間でのボタンは機能しません。

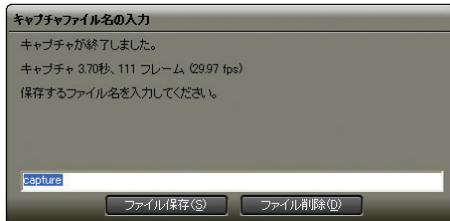


- 7 キャプチャを終了するには、[キャプチャ/停止] ボタンをクリックします。

[キャプチャ/停止] ボタン



- 8 ファイル名を確認し [ファイル保存] ボタンをクリックします。



- 9 [閉じる] ボタンをクリックします。



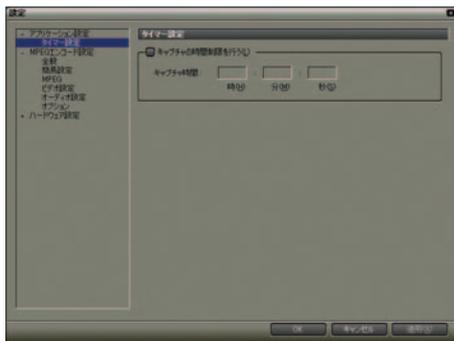
[閉じる] ボタン

3. MPEG キャプチャ

設定ダイアログ（製品により異なります）

アプリケーション設定

- タイマー設定

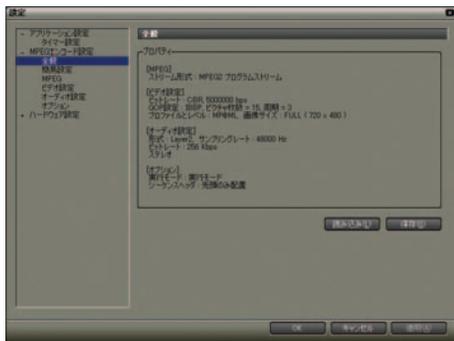


[キャプチャの時間設定を行う] :

キャプチャを行う時間を設定します。設定した時間でキャプチャを停止します。

MPEG エンコード設定

- 全般



[プロパティ] :

現在の設定内容を表示します。

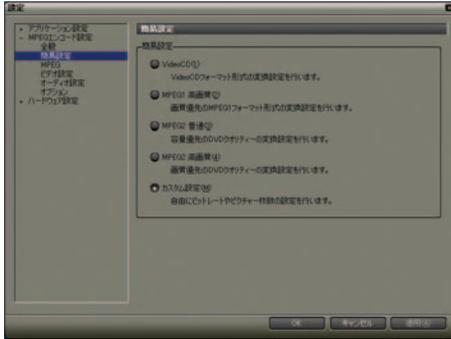
[読み込み] ボタン :

設定を読み込みます。

[保存] ボタン :

設定を保存します。

● 簡易設定

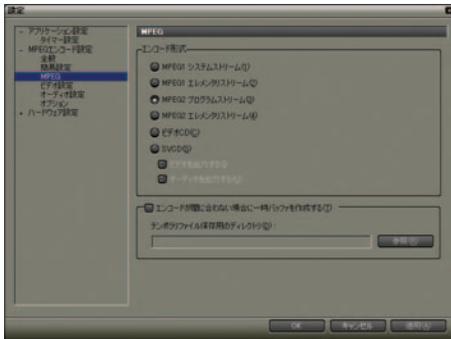


[簡易設定] :

エンコードのプリセットを選択します。

[カスタム設定] にチェックを入れると、任意の設定値を設定できます。

● MPEG



[エンコード形式] :

MPEGのエンコード形式を選択します。

MPEG1/MPEG2 elementary streamを選択すると、ビデオまたはオーディオを単独でエンコードできるようになります。

● エンコードが間に合わない場合に一時バッファを作成する

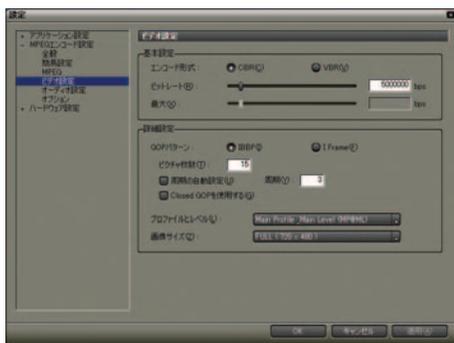
バッファを使用するかどうかを選択します。

[テンポラリファイル保存用のディレクトリ] :

テンポラリファイルを保存するディレクトリを指定します。[参照] ボタンをクリックし、ディレクトリを選択することができます。

3. MPEG キャプチャ

● ビデオ設定



● 基本設定

[エンコード形式] :

ビットレートのコントロール方法を設定します。

[CBR] を選択すると、ビデオのビットレート値をほぼ一定に保ちます（固定ビットレート）。[ビットレート] にビットレートの平均値を入力します。

[VBR] を選択すると、ビデオのビットレート値が変動します（可変ビットレート）。[ビットレート] にビットレートの平均値を、[最大] に上限値を入力します。

● 詳細設定

[GOP パターン] :

[IBBP] を選択すると、前後のピクチャを参照して映像を構成します。[I Frame] を選択すると、前後のフレームを参照することなくフレーム単位で映像を構成します。[I Frame] を選択するとデータサイズが大きくなるため、通常は [IBBP] を選択してください。

[IBBP] を選択した場合、ピクチャ枚数と周期、Closed GOP が設定可能となります。

[ピクチャ枚数] :

ひとつの GOP に含まれるフレームの数を設定します。

[周期] :

ひとつの GOP に含まれる I、または P フレームの間隔を設定します。[周期の自動設定] にチェックを入れると、自動的に最適な周期を設定します。

[Closed GOP を使用する] :

チェックを入れると、各 GOP 内で情報が完結します。ただし圧縮効率が低下するため、Closed GOP 構造の MPEG ファイルを GOP 単位で編集する場合のみチェックを入れます。

[プロファイルとレベル] :

プロファイルとレベルを選択します。この項目は、MPEG2 を作成する場合に選択可能となります。

[画像サイズ] :

1 画面を構成するピクセル数を設定します。大きいほど解像度は高くなります。

● オーディオ設定



● 基本設定

[サンプリングレート] :

オーディオ信号の標準化周波数を選択します。MPEG2 を作成する場合は 48kHz、MPEG1 やオーディオ CD、VideoCD を作成する場合は 44.1kHz、データ量を少なくする場合は 32kHz を選択することをお勧めします。

[形式] :

オーディオの圧縮形式を選択します。

[ビットレート] :

オーディオの 1 秒あたりのビット量を選択します。

● 詳細設定

[チャンネル] :

L チャンネルと R チャンネルにある程度相関がある場合は [ステレオ]、1 チャンネルだけのオーディオ信号を記録する場合は [モノラル]、各チャンネルにまったく別の音を記録する場合は [デュアル] を選択します。

[エンファシス] :

高音域を強調します。

[プロテクション] :

チェックを入れると、コピー禁止のヘッダーを追加します。

[オリジナル] :

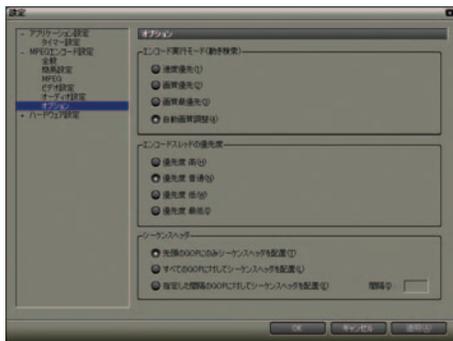
チェックを入れると、オリジナルデータであることを示す情報を記録します。

[コピーライト] :

チェックを入れると、データに著作権があることを示す情報を記録します。

3. MPEG キャプチャ

● オプション



[エンコード実行モード (動き検出)] :

エンコードの優先項目を選択します。[自動画質調整]を選択した場合、CPUの負荷に応じて画質を自動的に調整します。

[エンコードスレッドの優先度] :

エンコードスレッドの優先度を選択します。

[シーケンスヘッダ] :

シーケンスヘッダを配置する場所を選択します。[指定した間隔の GOP に対してシーケンスヘッダを配置]にチェックを入れると任意の間隔が設定できます。

canopus

カノープス株式会社

本社 / 〒 651-2241 神戸市西区室谷 1-2-2

※本書は、再生紙（古紙率100%）を使用しています。

F095511092